

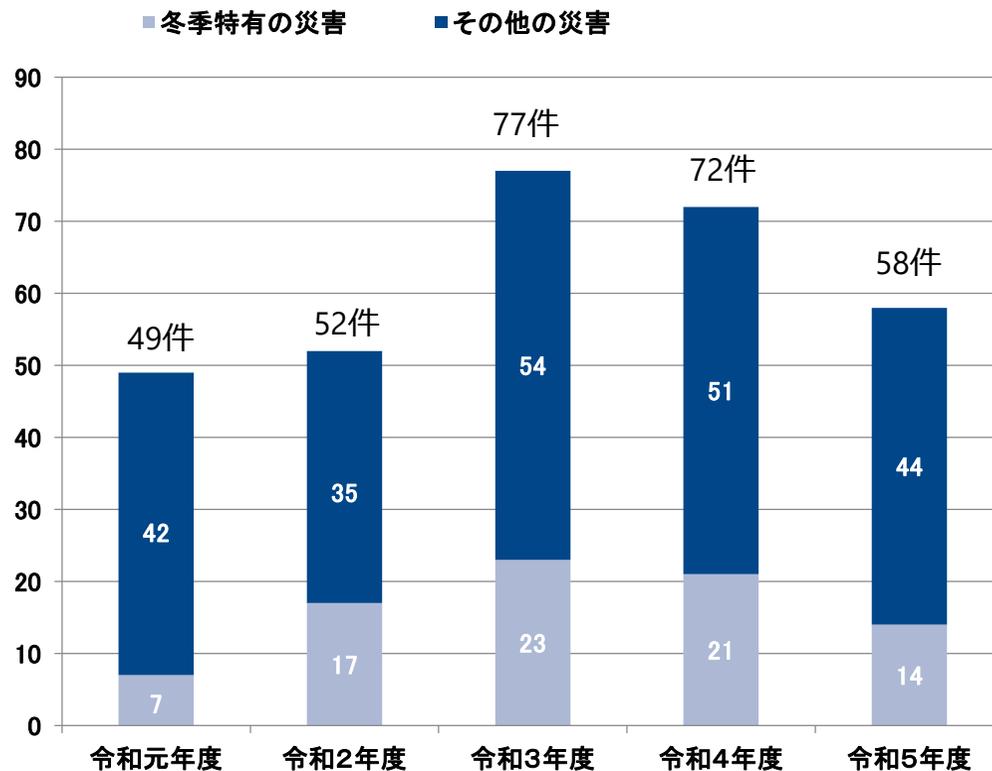
「令和6年度 STOP! 冬季労働災害」講習会

冬季労働災害防止対策について

高山労働基準監督署 安全衛生課

はじめに（1 / 3）

高山署管轄の労働災害の現状



高山署管轄における冬季災害 （12月～3月）の件数

○過去5年間

- ・休業4日以上：298件
- ・冬季特有の災害：82件
（全体の**27.5%**）

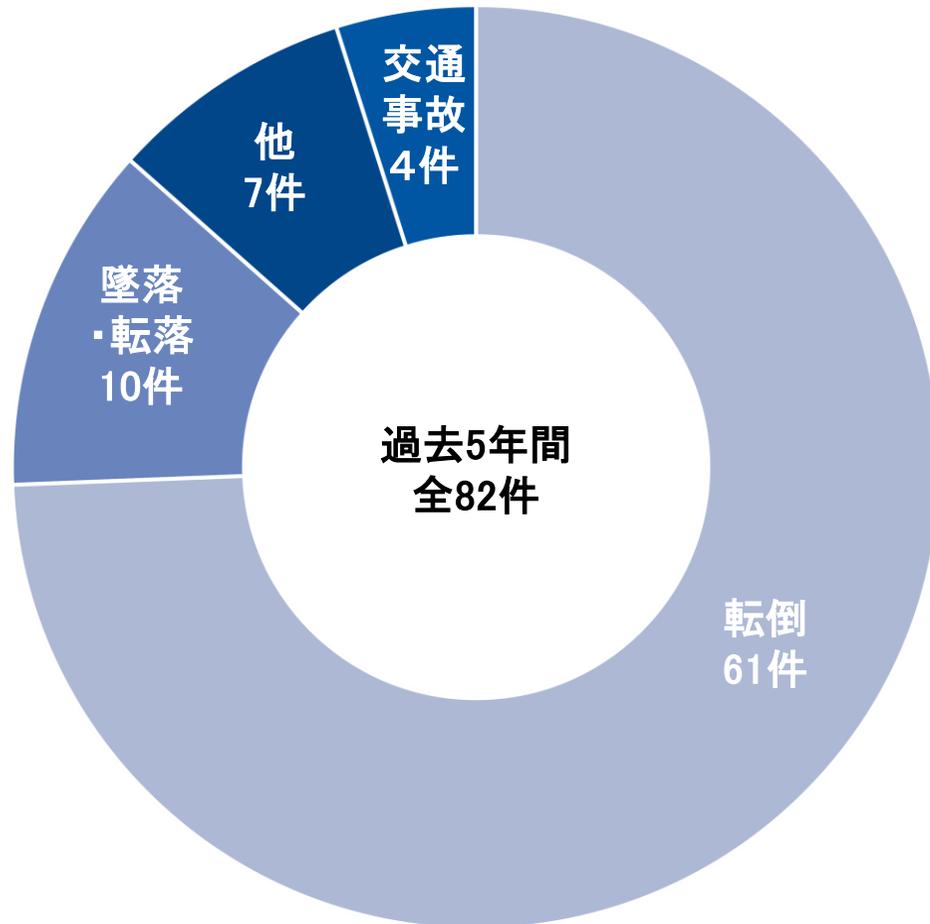
○令和5年度

- 休業4日以上：58件
- 冬季特有の災害：14件
（全体の**24.1%**）

**⇒冬季における労働災害の
およそ1/4は冬季特有の災害**

はじめに（2 / 3）

高山署管轄の労働災害の現状

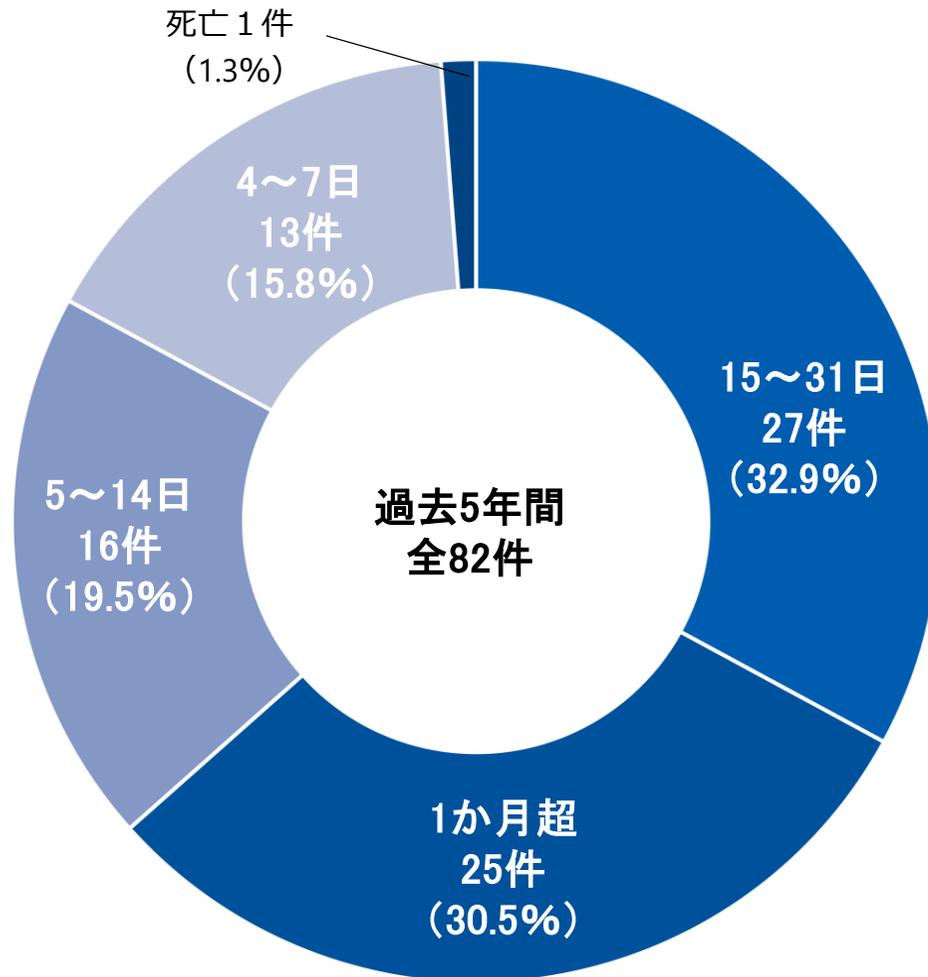


高山署管轄における過去5年間の
冬季特有の災害の内訳

- ・ 転倒 : 61件 (74.4%)
- ・ 墜落・転落 : 10件 (12.2%)
- ・ 交通事故 : 4件 (4.9%)
- ・ その他 : 7件 (8.5%)

はじめに (3 / 3)

高山署管轄の労働災害の現状



高山署管轄における過去5年間の
冬季特有災害の休業日数の内訳

- ・ 4~7日 : 13件 (15.8%)
- ・ 5~14日 : 16件 (19.5%)
- ・ **15~31日 : 27件 (32.9%)**
- ・ **1か月超 : 25件 (30.5%)**
- ・ 死亡 : 1件 (1.3%)

本日の内容

- ① STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは
- ② 労働災害防止対策の必要性について
- ③ 冬季労働災害防止対策について
(転倒、転落・墜落、交通事故、その他)
- ④ リスクアセスメントについて

本日の内容

- ① STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは
- ② 労働災害防止対策の必要性について
- ③ 冬季労働災害防止対策について
(転倒、転落・墜落、交通事故、その他)
- ④ リスクアセスメントについて

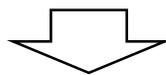
① STOP! 冬季労働災害プロジェクト

STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは

積雪寒冷地である飛騨地域においては、12月～3月の冬季期間中、

- ・ 積雪・地面の凍結等による転倒災害
- ・ 屋根の雪下ろし時等の墜落・転落災害
- ・ 降雪・積雪による視界不良や、路面の凍結等による交通事故
- ・ 視界不良による接触や、路肩からの転落等の重機による災害
- ・ ストープ使用時等の一酸化炭素中毒

等、冬季特有の労働災害が発生しています。



高山署では、上記期間において「STOP! 冬季労働災害プロジェクト」を実施し、冬季特有の労働災害の防止に向けた取組みを行っています。



転倒



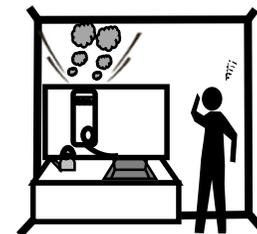
墜落・転落



交通事故



重機災害



一酸化炭素中毒

本日の内容

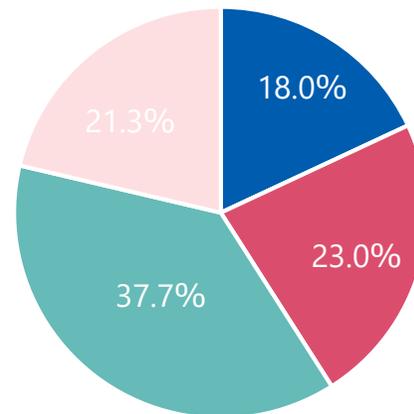
- ① STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは
- ② 労働災害防止対策の必要性について
- ③ 冬季労働災害防止対策について
(転倒、転落・墜落、交通事故、その他)
- ④ リスクアセスメントについて

② 労働災害防止対策の必要性について

1. 労働者の生活を守る

令和元年から令和5年までの期間に発生した冬季特有の転倒災害に係る見込休業期間分布

4日から7日まで	11件 (18.0%)
8日から14日まで	14件 (23.0%)
15日から31日まで	23件 (37.7%)
1か月以上	13件 (21.3%)



■ 4日から7日まで ■ 8日から14日まで
■ 15日から31日まで ■ 1か月以上

現在の要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

	第1位	第2位	第3位
令和4年	認知症 (16.6%)	脳血管疾患 (脳卒中、 16.1%)	骨折・転倒 (13.9%)
令和元年	認知症 (17.6%)	脳血管疾患 (脳卒中、 16.1%)	高齢による衰弱 (12.8%)

② 労働災害防止対策の必要性について

2. 会社（管理者）を守る

被災労働者又は遺族から労働災害で被った損害について、不法行為責任や安全配慮義務違反で損害賠償を請求されることがあります。

その請求により労災保険給付が行われた場合、事業者は労災保険給付の価額の限度で損害賠償の責任を免れます。

しかし、労災保険給付を超える損害に関しては、民事上の損害賠償の責任が問われます。

事業者が民事上の損害賠償の責任が問われる法的根拠として、「労働契約の付随義務として安全配慮義務を尽くして労働者を災害から守らなければならない債務不履行責任（民法第415条）」による損害賠償を認める裁判例が多く見られます。



本日の内容

- ① STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは
- ② 労働災害防止対策の必要性について
- ③ 冬季労働災害防止対策について
(転倒、転落・墜落、交通事故、その他)
- ④ リスクアセスメントについて

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

① 転倒災害

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害発生状況

どのような転倒災害が多い？

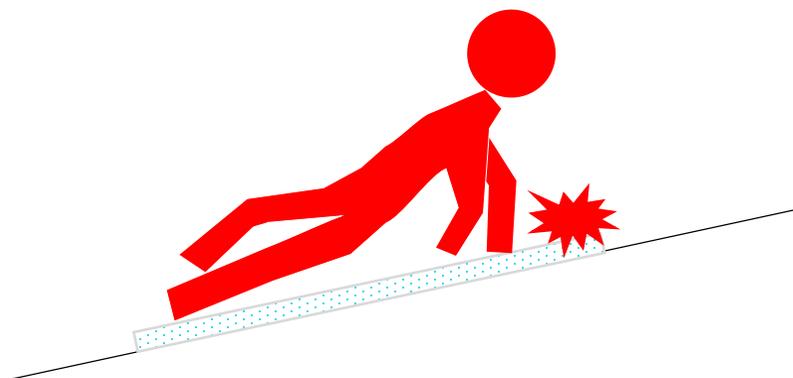
建物出入口で転倒

- ☞ 屋内から屋外への足元の急激な変化
- ☞ 屋根から雪解け水が落ちて凍結

駐車場で転倒

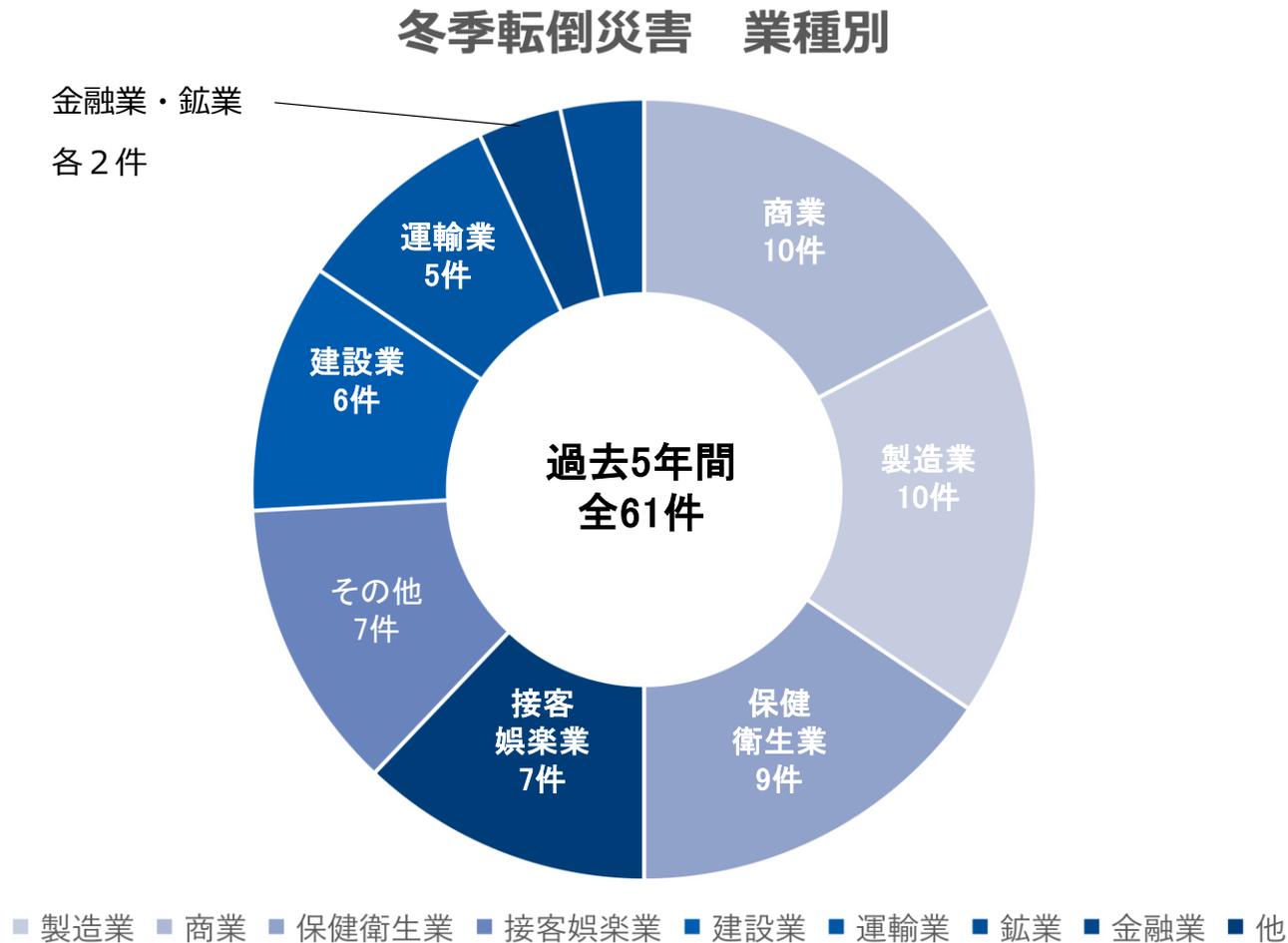
- ☞ 従業員駐車場の除雪が間に合わない
- ☞ 荷物を両手で持っていた
- ☞ 照明が不十分

災害事例	坂道で凍った路面に気付かず転倒	
災害発生状況	駐車場内の坂道を徒歩で下っていたところ、足元の状況を確認していなかったため、路面が凍っていることに気付かず滑って転倒し、転倒した際に地面に右手をついたため手首を骨折した。	
傷病部位	右手首	
傷病名	骨折	
休業見込期間	2週間	



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

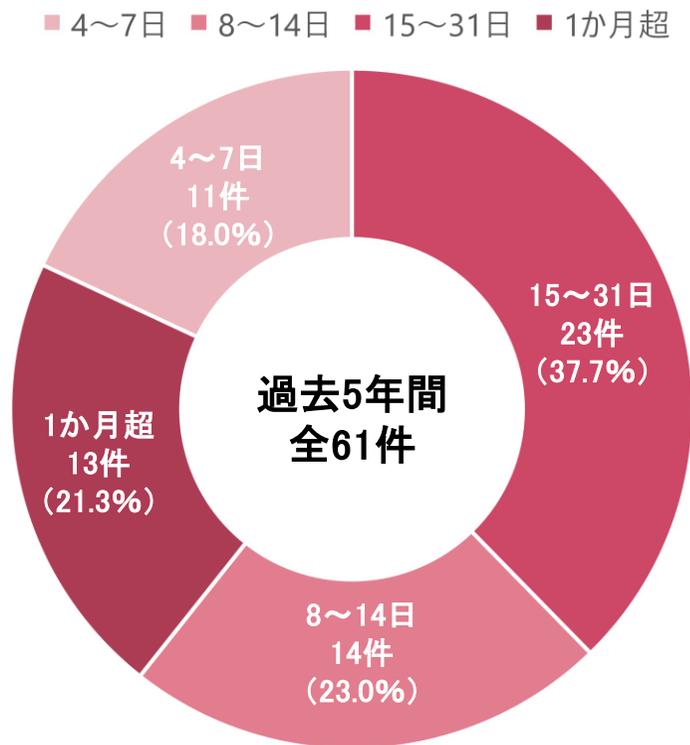
転倒災害発生状況



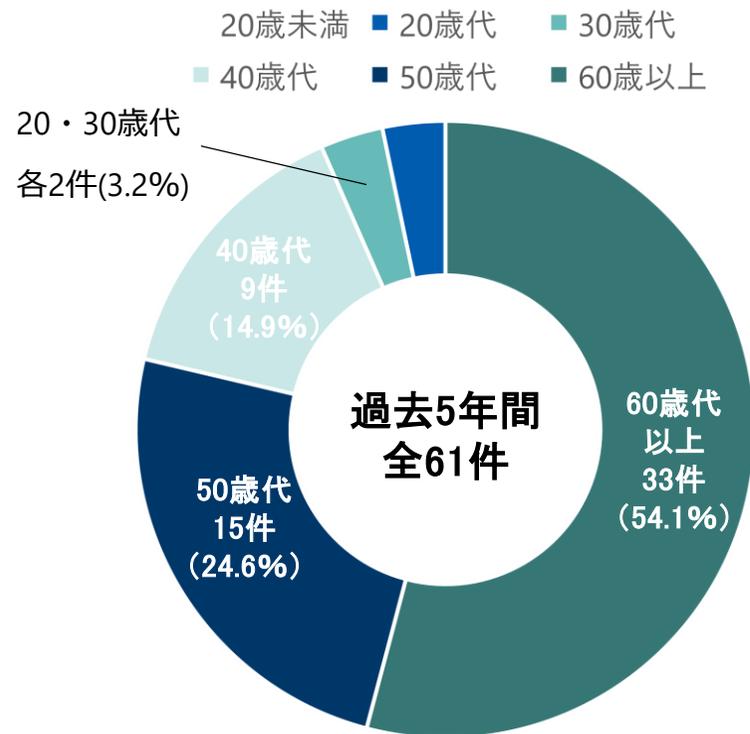
③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害発生状況

冬季転倒災害 休業期間別



冬季転倒災害 年代別



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

令和5年度に発生した冬季転倒災害 休業4日以上全10件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
1	製造業	12月	深夜に工場外で作業していたところ、凍結したアスファルトに足を滑らせて転倒した。被災箇所には街灯が少なく、照明は設備によって遮られていた。	1週間	20代	足首靭帯損傷
2	運送業	1月	事業場敷地内において、凍結防止剤の散布中に、凍結した路面に足を滑らせ転倒した。	16日	50代	左脛骨・骨折
3	製造業	1月	事業場敷地内において、通用路を歩いていたところ、凍結した路面に足を滑らせて転倒した。	1か月	60代	右足甲・踵骨折
4	病院	1月	職員駐車場を歩いていたところ、凍結した路面に足を滑らせて転倒した。	4週間	60代	右肩腱板損傷
5	社会福祉施設	1月	始業前に職員玄関前を雪かきしていたところ、凍結していたスロープ状のコンクリートで足を滑らせて転倒した。	1週間	60代	前頭部、顔面打撲
6	教育研究業	2月	スキー指導中に、バランスを崩して転倒した。	2か月	40代	右手首骨折

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

令和5年度に発生した冬季転倒災害 休業4日以上全10件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
7	旅館業	2月	事業場敷地内において、融雪剤を入れたバケツを持ち、スコップで巻きながら作業していたところ、凍結した路面に足を滑らせて転倒した。	3か月	70代	胸椎椎体骨折
8	製造業	3月	寮の駐車場にて、凍結していた路面に足を滑らせ転倒した。	4日	20代	右手・左肩・右膝挫傷
9	運送業	3月	トラックのボディに滑り止めの小石を散布していたところ、足を滑らせて転倒した。作業を行う内にボディには雪が積もっており、踏み固められていた。	8日	60代	両側外傷性慢性硬膜下血腫
10	旅館業	3月	事業場敷地内の駐車場において、車から降りたところ、凍結した路面に足を滑らせて転倒した。被災当時は早朝であり、凍結に気づけなかった。	30日	50代	全身打撲

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止のチェックポイント

☑まずはチェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	1	段差・凹凸・突起物・継ぎ目等の躓く原因を取り除いていますか？
<input type="checkbox"/>	2	労働者から転倒の危険を感じた場所の情報収集に基づくマップ作成等により、安全な通路と危険個所の周知していますか？
<input type="checkbox"/>	3	融雪剤や砂の散布、温風機やヒートマットの設置等の凍結防止対策を実施していますか？
<input type="checkbox"/>	4	夜間の暗い箇所に照明を設置し、明るさを確保していますか？
<input type="checkbox"/>	5	保温性が高く、滑りにくい靴(スパイク付長靴等)を使用していますか？
<input type="checkbox"/>	6	屋内に入る際に、靴に付着した雪や水分を除去していますか？
<input type="checkbox"/>	7	自動車から降りる際に、降車場所の路面状況を確認していますか？
<input type="checkbox"/>	8	小さな歩幅でゆっくりと、靴の裏全体をつけて歩行していますか？
<input type="checkbox"/>	9	服やズボンのポケットに手を入れず、両手を空けて歩行していますか？

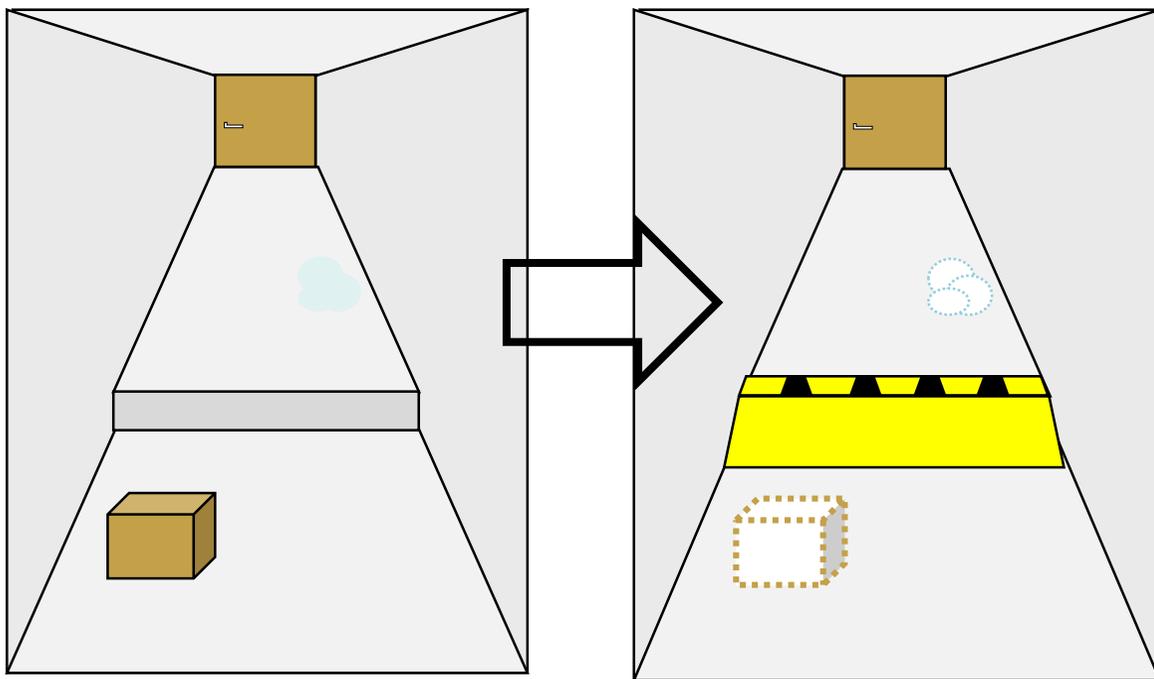
⇒ ☑が付かなかった部分は、今日から積極的な取り組みをお願いします

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 躓く原因の排除

- ・ 事業場内をパトロールし、躓きの原因となる段差・凹凸・突起物・継ぎ目・障害物等を見つけた場合は、出来るだけ物理的に排除する。
- ・ 躓きの原因を排除することが困難な場合は、塗装やテープにより注意喚起を行う。
- ・ 雪で埋もれるおそれがある箇所の特定制も併せて行う。

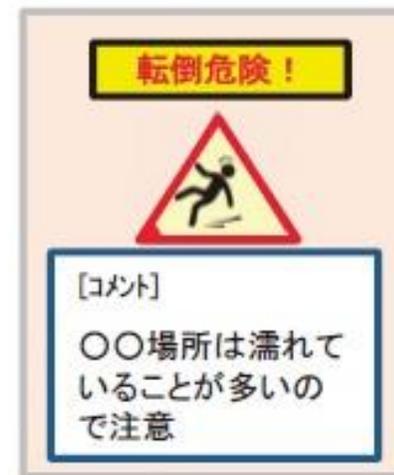
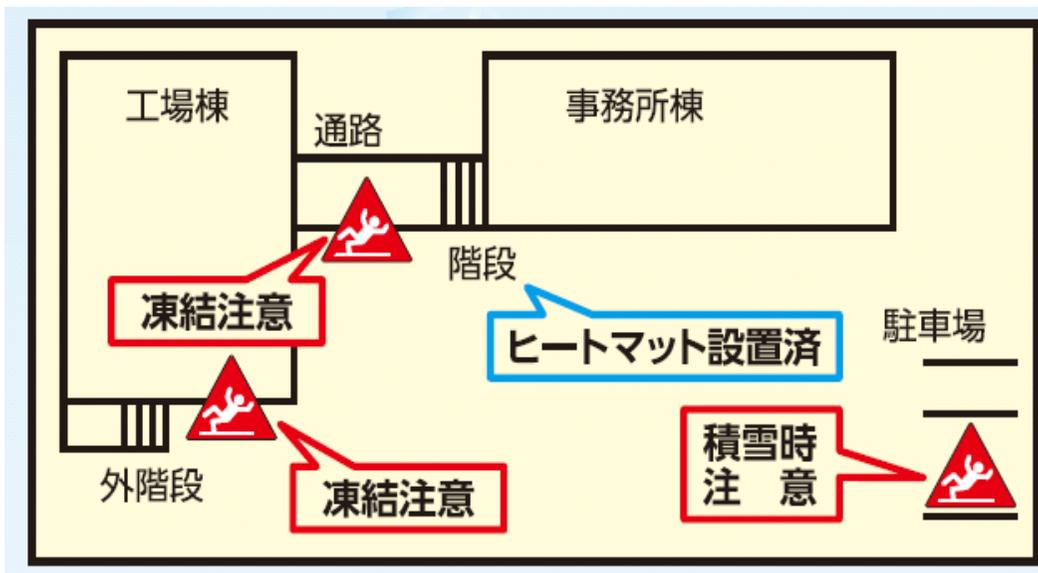


③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ハザードマップの作成

- ・パトロールやヒヤリハットの集計により事業場内、駐車場、寮等の転倒危険箇所を特定し、ハザードマップにまとめて労働者に周知する。
- ・特に転倒するおそれの高い箇所には、カラーコーンで立入禁止とし、目につく位置にステッカーを貼るといった措置を講じる。
- ・朝、夕方、夜など、時間帯に応じて危険箇所が異なる点に留意する。



ステッカーは↓からダウンロードすることができます。

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/tentou1501.html>

STOP! 転倒

検索

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶路面を凍結させない工夫

- ・屋外通路や駐車場の人が往来する箇所は、除雪や融雪剤の散布を行う。
 - ・頻繁に人が往来し、転倒災害が頻発している建物出入口には、ヒートマットの敷設が有効である。
 - ・凍結のおそれのある屋内通路には、温風機の設置等で凍結部分のない安全な通路を確保する。
- ・路面が凍結した場合には、気温上昇による氷表面の溶けだしを踏まえた対応が不可欠である。
溶ける程度の薄い氷であれば融雪剤、そうでなければ摩擦力を高めるための砂の散布が有効である。



ヒートマット

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 照度の確保

冬季は日照時間が短くなるため、段差や障害物が見えにくくなり、転倒しやすい。

照明が不十分な通路や作業箇所には照明設備を設置する。

やむを得ず照明のない場所に向かう際は、必ず懐中電灯等を携帯し使用する。

(参考) 安衛則第 541 条 (通路の照明)

事業者は、通路には、正常の通行を妨げない程度に、採光又は照明の方法を講じなければならない。

« J I S 規格による照度 ⇒ 階段：150 ルクス 廊下・通路：100 ルクス »

(例) 10～100ルクス：夜の街灯の真下

500～700ルクス：百貨店売り場

30,000ルクス：曇天の真昼12時

100,000ルクス：晴天の真昼12時



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶滑りにくい靴を選ぶ

自分が歩く路面の状況に合わせて適切な靴を選ぶ

- ・スパイク付きの底 : 金属製のスパイクが凍結した路面に突き刺さり滑りにくい。タイル張りの屋内では逆に滑りやすいことも。
- ・軟らかいゴム底 : 路面に対する接着力が強いため、滑りにくい。
- ・深い溝のある靴底 : 路面に対するグリップ力が強く滑りにくい。溝に雪が詰まって固まると滑りの原因となることも。
- ・滑り止め材入りの靴底 : 「やすり」のように路面の表面をひっかくため滑りにくい。

※通常靴に外付けする脱着式のアタッチメントも有効



スパイク付き長靴



脱着式かんじき

▶サポーターの着用

転倒の危険が高い箇所を歩行する際は、ヘルメットや肘や膝のサポーターを着用すると効果的。

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 転倒防止に有効な安全靴

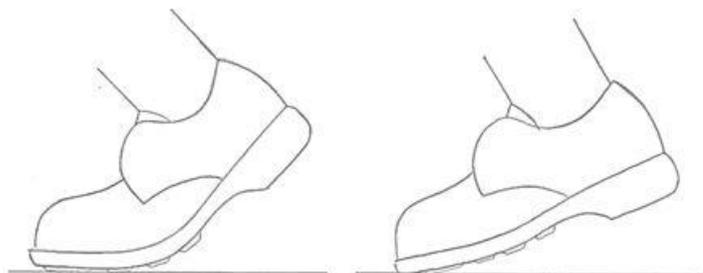
転倒に有効な安全靴に求められる性能を整理すると、次の5点になります。

(1) 靴の屈曲性

靴の屈曲性が悪いと、足に負担がかかるだけでなく、擦り足になり易く、つまずきの原因となります。

(2) 靴の重量

靴が重くなると、足が上がりにくくなるため、擦り足になり易く、つまずきの原因となります。靴が重く感じられる重量には個人差がありますが、短靴では900g/足以下のものをお勧めします。



靴底の接地面積が大きくなり安定する。 靴底の接地面積が小さく不安定。

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

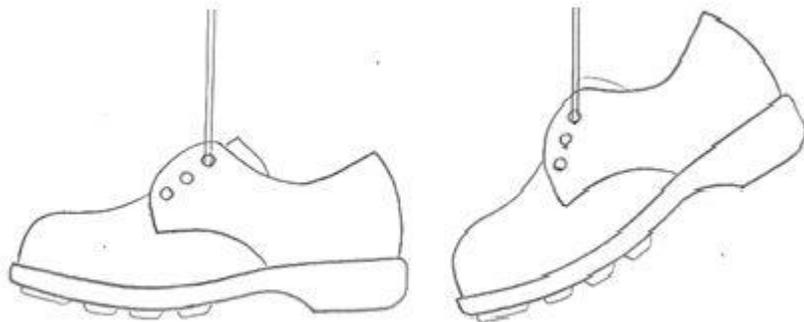
転倒災害防止の方法

▶ 転倒防止に有効な安全靴

転倒に有効な安全靴に求められる性能を整理すると、次の5点になります。

(3) 靴の重量バランス

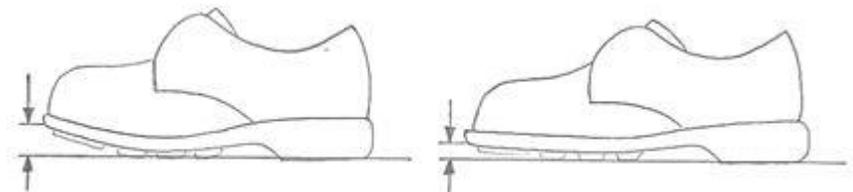
靴の重量がつま先部に偏っていると、歩行時につま先部が上がりにくく（トゥダウン）、無意識のうちに擦り足になりやすく、つまずきを生じ易くなります。



安定した歩行ができる。

トゥダウンが発生する。

(4) つま先部の高さつま先部の高さ（トゥスプリング）が低いと、ちょっとした段差につまずき易くなります。高年齢労働者ほど擦り足で歩行する傾向があるため、よりつまずき易くなります。



ある程度のトゥスプリングの高さは必要である。

③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 転倒防止に有効な安全靴

転倒に有効な安全靴に求められる性能を整理すると、次の5点になります。

(5) 靴底と床の耐滑性のバランス

滑り易い床には滑りにくい靴底が有効ですが、滑りにくい床に滑りにくい靴底では、摩擦が強くなりすぎて歩行時につまずく場合があります。靴底の耐滑性は、職場の床の滑り易さの程度に応じたものとする必要があります。安全靴の規格は、日本工業規格（JIS）と公益社団法人日本保安用品協会が定めたJSAA規格の2つがあり、日本工業規格では、JIS T 8101（安全靴）において、「耐滑性が優れる靴」とは、動摩擦係数が0.2以上の物と規定されています。耐滑性能に優れた靴底を持つJIS規格安全靴には「F」（friction=摩擦の頭文字）の記述が入っており、JSAA規格プロテクティブスニーカーには、ベロ裏に耐滑性を示すピクトが入っております。

	動摩擦係数
耐滑性が優れる靴	0.2以上
一般のプロテクティブスニーカー	0.05～0.15程度
市販の紳士靴	0.01～0.1程度

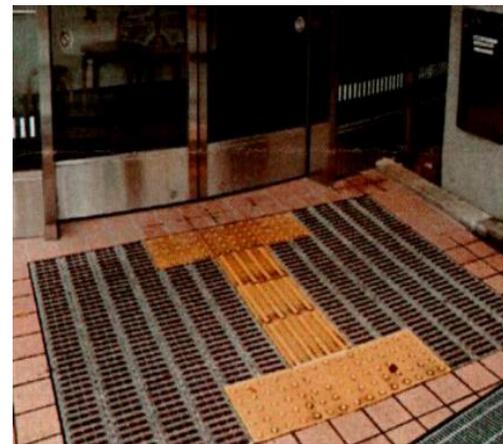


③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 靴についた雪を屋内に持ち込まない

建物出入口にブラシ状タイルを置く。
出入口付近にモップ等を常備しておく。



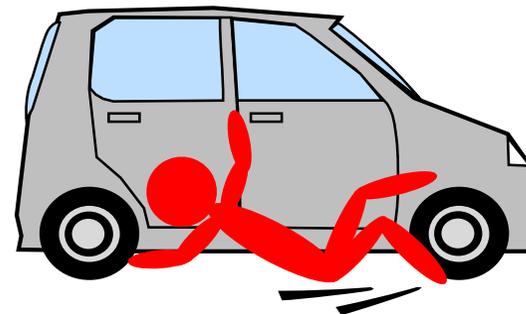
ブラシ状タイル

▶ 乗降車時の転倒に注意

- ・ 自動車を降りた際に路面が凍結していたため転倒
- ・ 降車後、ドアを閉めようと足を踏ん張った際に、路面が凍結していたため転倒

といった災害が頻発している。

凍結した箇所への停車は可能な限り避け、乗降車時には足元が凍結していないか確認してから行動する。



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶安全な歩き方で

①小さな歩幅で

歩幅が大きいと足を高く上げるため、体の揺れが大きくなり、転倒しやすい。

②靴の裏全体をつけて

重心を前におき、足の裏全体を路面につけるすり足のような歩き方を心がける。

③ゆっくりと

余裕をもって行動する。

急に走る、急に曲がるなどの動作は避ける。

余裕を持つことで、横断歩道の白線、マンホール等金属部分の上といった特に滑りやすい箇所を避けて通ることができる。

④両手を空ける

バランスを崩してから完全に転倒するまでの時間は1秒程度とされる。上着やズボンのポケットに手を入れたまま歩行すると咄嗟に対応できない。

歩行しながらのスマートフォン、携帯電話の使用は避ける。

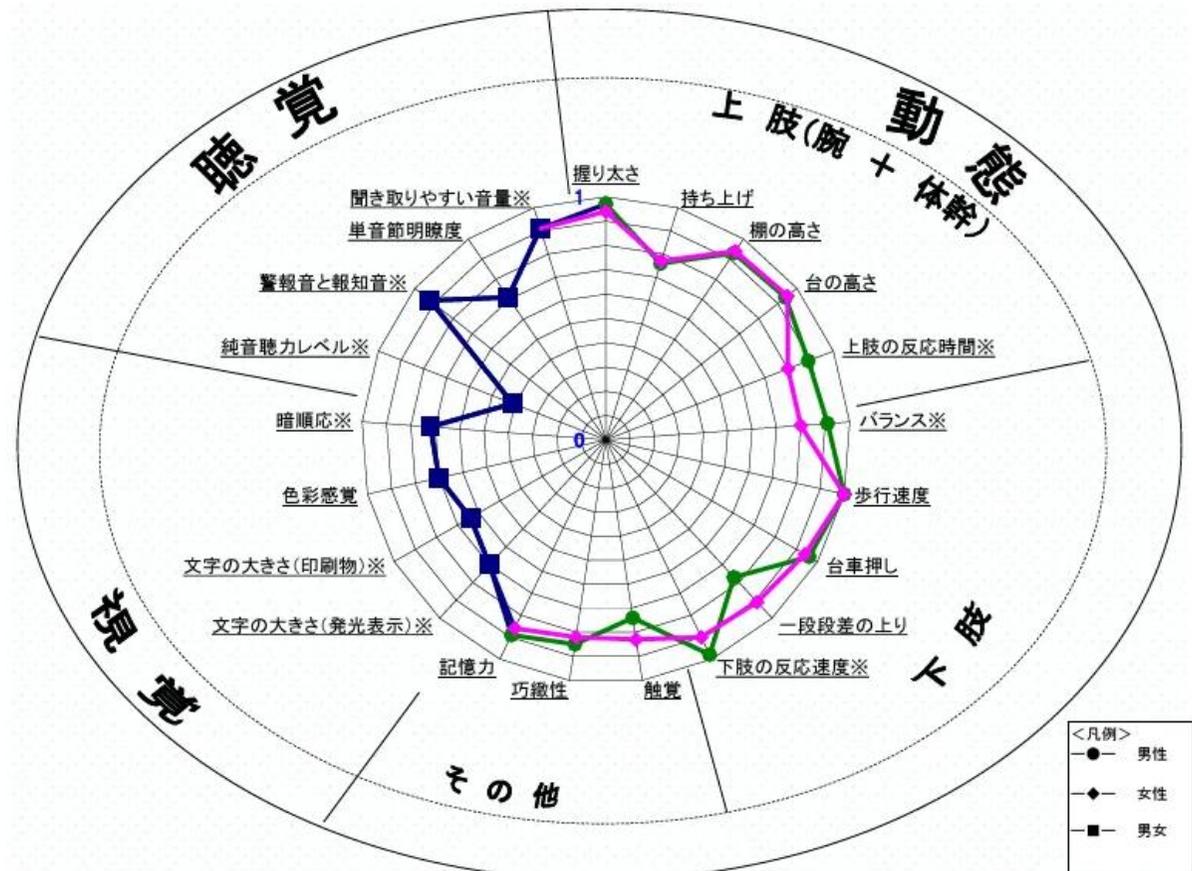
③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

転倒災害防止の方法

▶ 転んでも怪我をしにくい身体作り

- ・ 定期健康診断等の結果から、労働者の健康状態を把握すること。
- ・ 「転倒時リスク評価セルフチェック表」を活用し、労働者自身に転倒時のリスクを自覚させること。
- ・ 「いきいき健康体操」等の実施

壮年者と前期高齢者の比較(動態・視覚・聴覚)



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

高山労働基準監督署における取組事例①

▶ 駐車場に融雪装置を設置

融雪装置（パイプに開けた小さな穴から水を放出し、雪を溶かすもの）を設置し、転倒のリスクを軽減する。



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

高山労働基準監督署における取組事例②

▶靴についた雪を屋内に持ち込まない

庁舎入口に2種類のマット（①目の粗いプラスチック製のもの、②浸透性のある綿状のもの）を設置し、靴底の雪を除去する



③ 冬季労働災害防止対策について【転倒災害】

飛騨地域の取組事例

事業場名
(所在地)

アルプス薬品工業株式会社
(岐阜県飛騨市古川町向町2丁目10-50)

業種

医薬品製造業

- 管理職向けに「冬季労働災害防止」への教育を行っている。
- 凍結危険箇所マップを作製し、全社に配信している。
- スタッドレスソールの使用を検討している。

取組内容
など

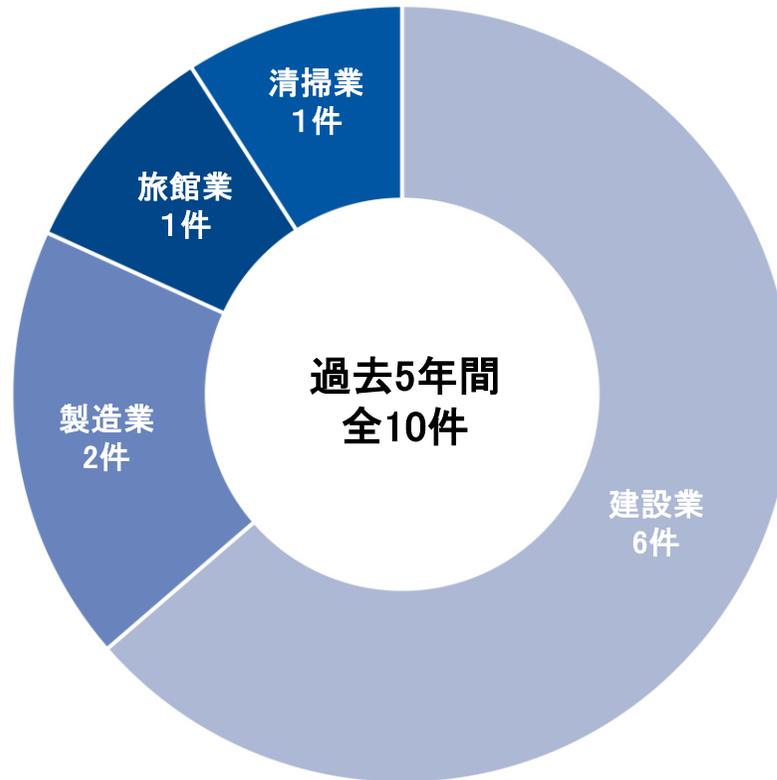


② 墜落・転落災害

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害発生状況

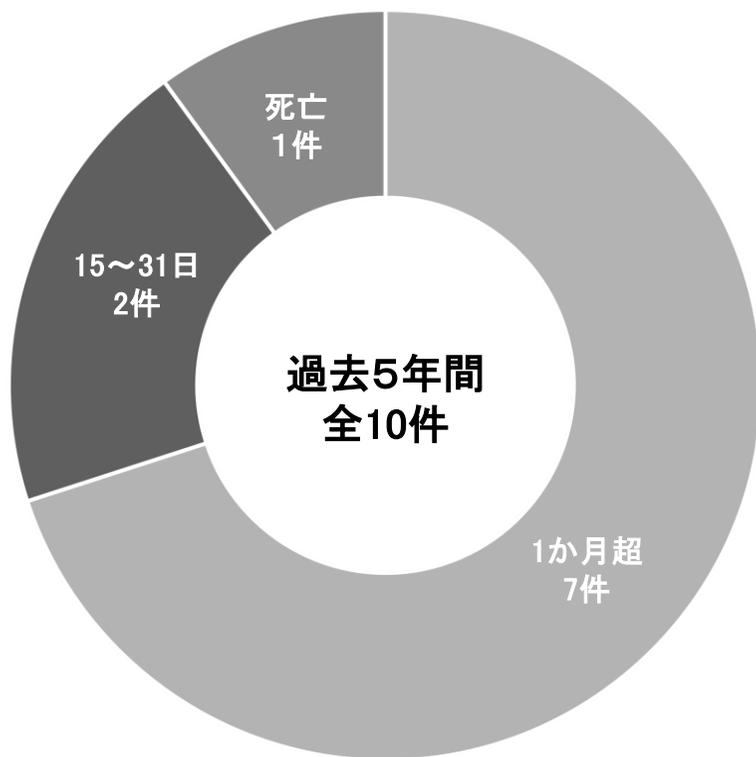
冬季墜落・転落災害 業種別



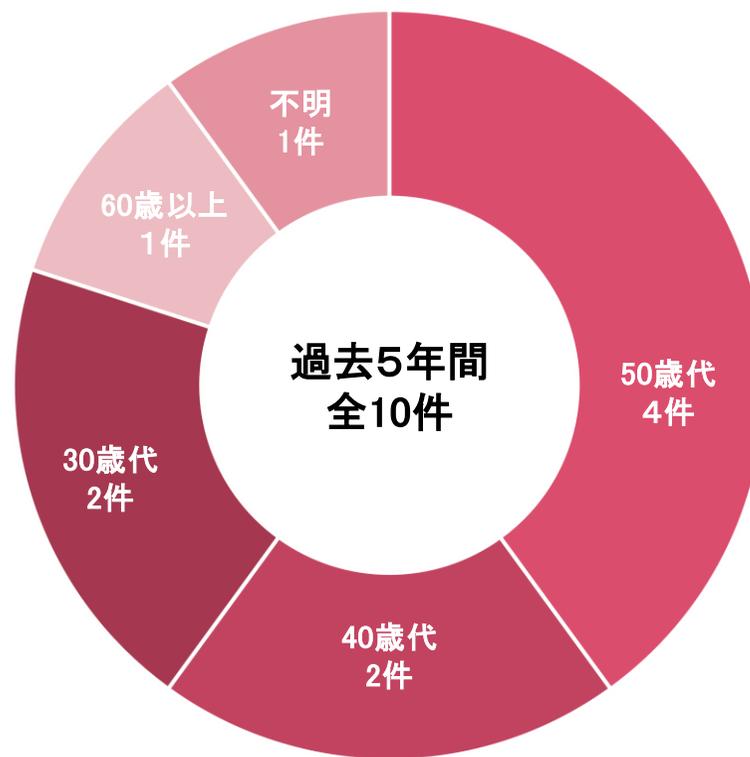
③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害発生状況

冬季墜落・転落災害 休業期間別



冬季墜落・転落災害 年代別



③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

過去5年間に発生した冬季墜落・転落災害 休業4日以上全10件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
1	建設業	12月	凍結した鉄製の外階段で足を滑らせ、背中から転落した。被災当時、階段は雨で濡れており、滑りやすい状態だった。	1か月	50代	右腰等骨折
2	清掃業	2月	道路を徒歩にて移動中、積雪に覆われた側溝内に左足から転落した。	4週間	50代	左胸肋骨骨折
3	建設業	1月	移動式クレーンに積もった雪を下ろし、地上に降りる際、足を滑らせて転落した。	1ヶ月	50代	胸椎骨折
4	建設業	12月	歩道の除雪作業中、除雪機がグレーチングに引っ掛かったため、グレーチングを動かしたところ、側溝内に左足から転落した。	15日	30代	腰椎横突起骨折
5	飲料製造業	12月	高さ3.5mの倉庫の雪下ろしのため、倉庫にはしごを立て掛けて作業を行っていたところ、はしごがずれ、はしごとともに地面に墜落した。	6ヶ月	40代	頭部打撲
6	建設業	12月	高所作業車のバケット部から地上に降りる際、昇降ステップの一部箇所が凍結しており、足を滑らせて転落した。	3ヶ月	30代	頸部骨折
7	旅館業	2月	雪下ろしの作業中、はしごを固定せずに使用していたところ、はしごが滑り、地面に墜落した。	2ヶ月	40代	腰椎骨折 前歯破折

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

過去5年間に発生した冬季墜落・転落災害 休業4日以上全10件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
8	建設業	1月	屋根の雪下ろし中に墜落した。	2か月	30代	粉碎骨折
9	建設業	2月	ブリッジを使用してドラグショベルをトラックの荷台まで上げていたところ、ドラグショベルが横転した。	死亡	70代	外傷性血胸
10	建設業	12月	除雪作業後、ショベルローダーから降りようとステップを使わずに飛び降りたところ、着地地点に石があり負傷した。	3ヶ月	50代	骨折

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害発生状況

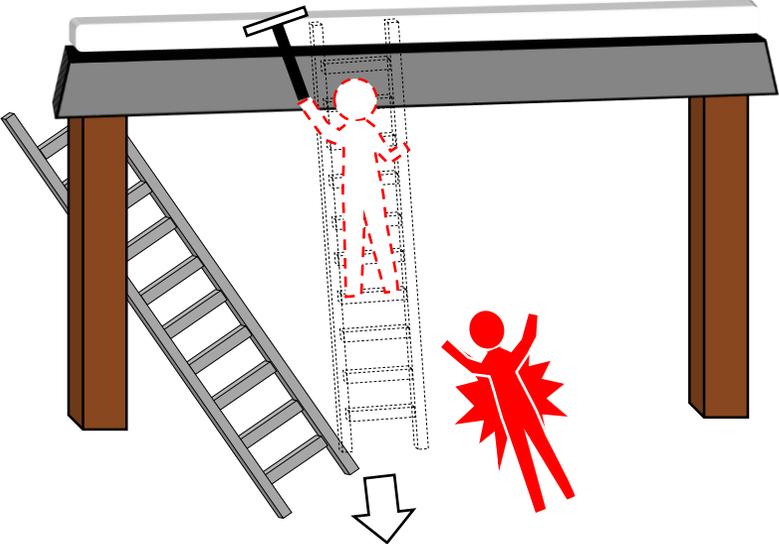
どのような墜落・転落災害が多い？

屋根端部から墜落

- ☞ 雪庇とともに墜落
- ☞ 屋根の端が分からず踏み外す

はしごから墜落

- ☞ 身を乗り出してバランスを崩した
- ☞ はしごの脚が滑って倒れた

災害事例	屋根の雪下ろし中にはしごがずれて転落	
災害発生状況		
傷病部位	腰、顔（歯）	
傷病名	腰椎骨折、前歯破折	
休業見込期間	2か月	

門の屋根の雪下ろし作業中、門にはしごを立てかけ、はしごの真ん中辺りまで登り、手を伸ばして屋根の雪を下ろしていたところ、はしごの足が手前方向にずれ、地面にはしごごと墜落し、地面に腰と顔面を打った。

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止のチェックポイント

☑まずはチェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	1	雪下ろし等の墜落・転落のおそれのある作業を行う際は、作業前に除雪する屋根の形状・材質及び雪庇の状況を確認していますか？
<input type="checkbox"/>	2	親綱等の墜落制止用器具取付設備を設置し、墜落制止用器具及びヘルメットを使用していますか？
<input type="checkbox"/>	3	足場で作業を行う際は、作業前に足場板上の除雪や、手すり等の墜落防止措置を実施していますか？
<input type="checkbox"/>	4	移動はしごには転移防止措置(脚部・上部の固定、上端の60cm以上突き出し)を実施していますか？
<input type="checkbox"/>	5	屋根の上部から下部へ除雪し、落雪場所は立入禁止としていますか？
<input type="checkbox"/>	6	2人以上での作業を原則とし、複数名で作業時は上下作業を禁止していますか？
<input type="checkbox"/>	7	明り取り用窓がある際は、事前に位置確認し踏み抜き防止措置を実施していますか？

⇒ ☑が付かなかった部分は、今日から積極的な取り組みをお願いします

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶作業を開始する前に

雪下ろしは危険作業であるという認識を持つ。

不慣れな場合は、無理に自分たちで雪下ろしを行わず、専門業者への委託も検討する。

▶作業計画の策定

以下について作業開始前にあらかじめ雪下ろし作業の計画を決め準備を行ってから作業を開始する。

- ①積雪状態、屋根の形状の確認
- ②落雪防止金具の有無、位置の確認
- ③昇降設備の場所及び固定の方法
- ④親綱の設置場所
- ⑤使用する安全帯や親綱等道具の確認

▶作業中止基準を明確にする

作業計画を策定する際には、作業の中止基準も定めておく。

悪天候（風速 10 m/s 以上、1 回の降雪 2.5 cm 以上等）が予想される場合は必ず作業を中止する。

気温が高い日は雪が滑り落ちやすくなる。晴れた日の午後などは屋根の雪下ろし作業や軒下での作業を控える。

雪下ろし作業計画書(例) 現場名 ○○ 様宅雪下ろし			
作業内容	作業日	作業時間	作業場所
積雪状態の確認	1月10日	10:00~12:00	現場
落雪防止金具の確認	1月10日	12:30~14:30	現場
昇降設備の確認	1月10日	15:00~17:00	現場
親綱の設置	1月10日	17:30~19:30	現場
安全帯の着用	1月10日	19:30~21:30	現場
雪下ろし作業	1月10日	22:00~24:00	現場
作業完了の確認	1月10日	24:00~25:00	現場

作業計画書の下部には、作業中止基準が明確に記されています。

作業中止基準	作業中止基準
1. 悪天候(風速10m/s以上、1回の降雪2.5cm以上等)が予想される場合	1. 安全帯やヘルムットが破損した場合(破損箇所が確認できる場合)
2. 安全帯の経年劣化(使用年数が経過している場合)	2. 大規模な降雪(積雪が20cm以上ある場合)
3. 積雪が20cm以上ある場合	3. 作業計画を策定した日より作業が完了しない場合
4. 積雪が20cm以上ある場合	4. 作業計画を策定した日より作業が完了しない場合
5. 積雪が20cm以上ある場合	5. 積雪が20cm以上ある場合
6. 積雪が20cm以上ある場合	6. 積雪が20cm以上ある場合

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ 屋根上作業時の墜落防止措置

原則、建物の周囲に足場を組む。足場を設けずに雪下ろし作業を行う場合は、

- ・ スタクションを使用して親綱を張る
- ・ 固定物に緊結して親綱を張る

等により墜落制止用器具（安全带）を確実に使用する。

ヘルメットの着用も忘れずに。

▶ 墜落製用器具の使用上の注意点

原則として「フルハーネス型」を使用すること。

ただし、フルハーネス型着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合（高さが6.75m以下）は「胴ベルト型（一本つり）」を使用できる。

高さ2 m以上の箇所作業床を設けることが困難なところで「フルハーネス型」を使用する際は、作業者に特別教育（学科4.5時間、実技1.5時間）を受講させること。



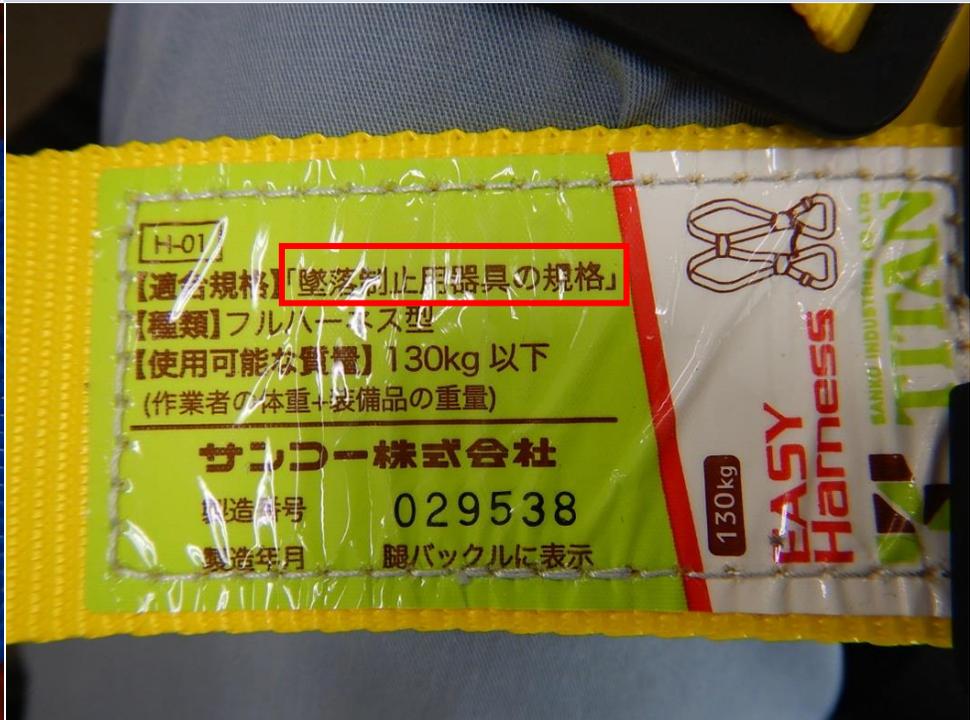
※親綱の安全な張り方等については、「-足場の設置が困難な屋根上作業- 墜落防止のための安全設備設置の作業標準マニュアル」もご確認ください。

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ 墜落制止用器具の規格

旧規格の安全帯は現在使用できない。自身の墜落用制止器具の確認を。

旧規格	新規格
厚生労働省「安全帯の規格」適合品の表示がある。 種類、種別、使用可能質量、最大自由落下距離、落下距離、製造年月の記載がない	「墜落制止用器具」、「墜落制止用器具の規格」の表示がある
 A photograph of a blue safety harness label for 'M-LOCK S-55'. The label is partially obscured by a red box highlighting the text '厚生労働省「安全帯の規格」適合品' (Complies with the specifications of the Ministry of Health, Labour and Welfare for safety harnesses). Other text on the label includes 'エムロック M-LOCK S-55', '製造番号 MO00574', and '製造年月 2007.07'. The manufacturer is identified as 'モドリ安全株式会社' (Modori Safety Co., Ltd.).	 A photograph of a yellow and green safety harness label for 'EASY Harness'. The label features a red box around the text '【適合規格】「墜落制止用器具の規格」' (Complies with the specifications for fall arrest equipment). Other text includes '【種類】フルハーネス型' (Full harness type), '【使用可能な質量】130kg 以下 (作業者の体重+装備品の重量)' (Usable mass: 130kg or less (worker's weight + equipment weight)), 'サンコー株式会社' (Sankou Co., Ltd.), '製造番号 029538', and '製造年月 脚バックルに表示' (Manufacture date: Indicated on the leg buckle). The label also shows '130kg', 'EASY Harness', and 'TITAN' branding.

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ヘルメットの規格

ヘルメットには(1) 墜落時保護用、(2) 飛来・落下用、(3) 電気用がある。
構造規格があり型式検定合格品であれば、ヘルメット内に表示がある



【取扱注意】 **SAMPLE**

①頭に合ったものを使用し、あごひもを締めてください。
②大きな衝撃を受けたものは、使用しないでください。

労(平25・10)検

(1) TH3300 (2) TH3301 (3) TF780

ミドリ電機製造(株)

平成26年10月製造

(1) 飛来・落下物用 (2) 墜落時保護用
(3) 電気用 7,000V以下

帽体材質 ABS

試験電圧 20,000V (1分間)

発売元
ミドリ安全株式会社

型式
SC-11BRA-KP

141002

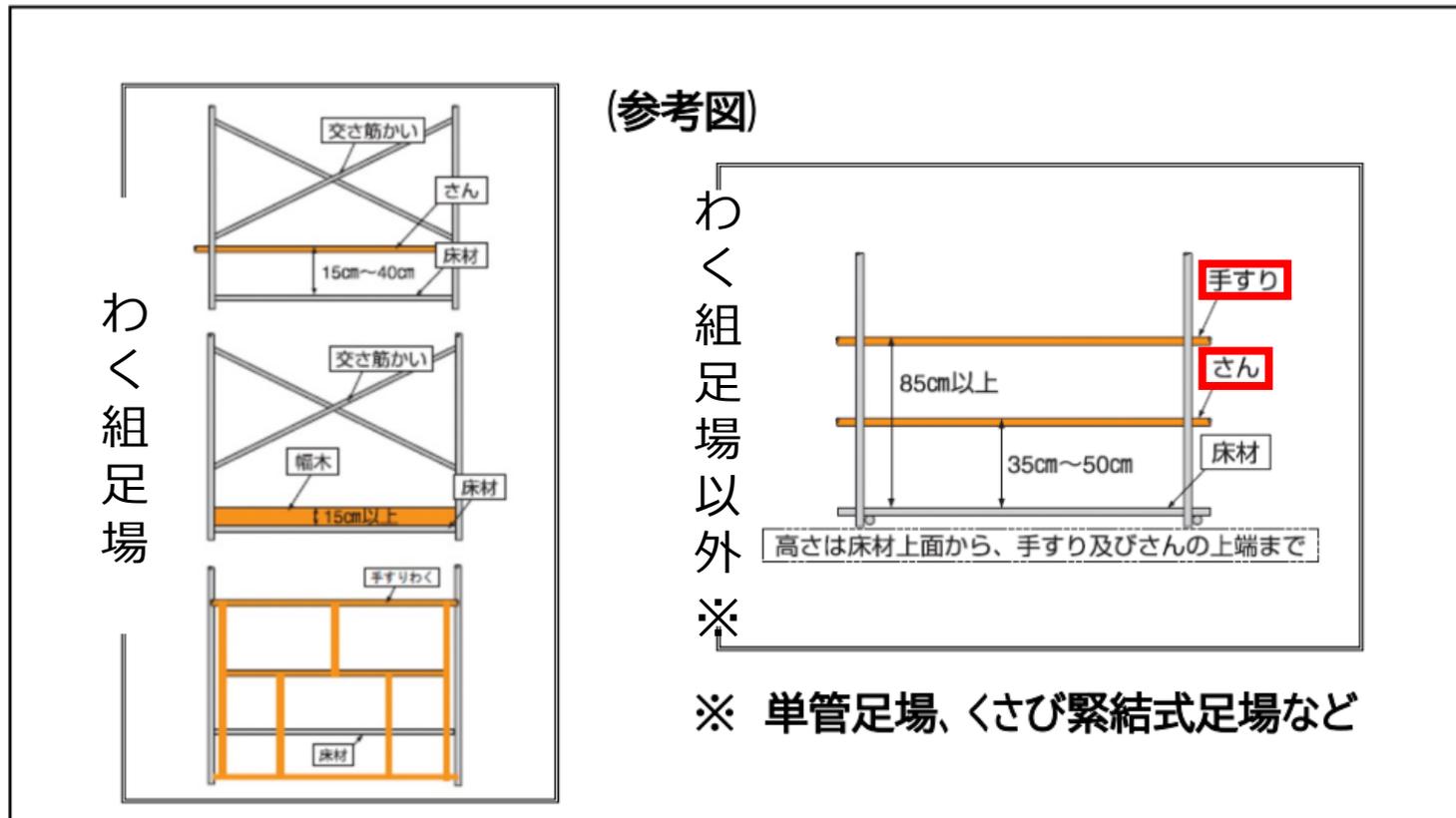
③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ 足場の墜落防止措置

足場上で積雪により転倒することもある。

転倒時に足場から墜落しないために、手すり・中さんといった墜落防止措置が適切か平時より厳しく確認する。



③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ 足場の整理整頓

足場上に用具等が散乱し、その上に雪が積もると視認できなくなり躓きの原因となる。

作業開始前に作業箇所・通行箇所が整頓されているか確認する。

▶ 悪天候後の足場点検

強風、大雨、大雪等の悪天候若しくは中震以上の地震の後に足場の作業を行うときは、作業開始前に点検を行う。

強風：10分間の平均風速 10m/s 以上

大雨：一回の降雨量 50mm 以上

大雪：一回の降雪量 25cm 以上

中震：震度 4 以上

足場に係る労働安全衛生規則の改正事項(平成27年7月施行)等自主点検表

◎は改正労働安全衛生規則に定める措置、その他は改正「足場からの墜落・転落災害防止総合対策推進要綱」により推進する措置です。点検事項ごとに措置が「適」になっているか確認してください。
(特に、◎が適となっていない場合は速やかに是正してください。)

点検事項	該当	措置	備考
(1) 足場の組立図を作成しているか。	□有・□無	□適・□否	
(2) ◎ 床材と階地との隙間は12センチメートル未満になっているか。 ◎ 作業の性質上この要件を満たすことが困難な場合など ¹⁾ に、その箇所を防護を講ずる等しているか。 困難な場合()	□有・□無	□適・□否	講ずる措置 □防柵 □その他()
(3) <わく組足場> 足場の建地の中心間の幅が60センチメートル以上の場合、足場の後路側(躯体と反対側)に「15センチメートル以上でできるだけ高い幅木」を設けているか。	□有・□無	□適・□否	
(4) <わく組足場> 足場の後路側に「上さん」を設置しているか。	□有・□無	□適・□否	
(5) <わく組足場以外の足場> 足場の建地の中心間の幅が60センチメートル以上の場合、足場の後路側に「幅木等」を設置しているか。	□有・□無	□適・□否	
(6) ◎ 築地の最高部から測って3メートルを超える部分の建地の側面が1本である場合、設計荷重が建地の最大使用荷重を超えていないか。	□有・□無	□適・□否	
(1) ◎ 幅40センチメートル以上の作業床を設けているか。	□有・□無	□適・□否	
(2) ◎ 安全帯を安全に取り付けるための設備等 ²⁾ を設け、労働者に安全帯を使用させているか。	□有・□無	□適・□否	講ずる措置 □手すり等 □その他()
(1) ◎ 作業の必要上臨時に手すり等を取り外す場合、関係労働者以外の労働者を立ち入らせないこととしているか。	□有・□無	□適・□否	
(2) ◎ 作業の必要上臨時に手すり等を取り外す場合、取り外す必要がなくなった後、直ちに原状に戻しているか。	□有・□無	□適・□否	
(1)-1 ◎ <注文者の場合> 監理人の労働者に足場を使用させる時に、足場の組立て等の後の点検を実施しているか。	□有・□無	□適・□否	
(1)-2 足場の組立て等作業主任者であって、足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受講している者等の十分な知識、経験を有する者 ³⁾ が点検しているか。	□有・□無	□適・□否	
(1)-3 足場の組立て等の当事者以外が点検しているか。	□有・□無	□適・□否	
(1)-1 ◎ 足場の組立て等の業務に初めて就かせる労働者に特別教育を実施しているか。	□有・□無	□適・□否	
(1)-2 ◎ 平成27年7月1日時点で既に足場の組立て等の業務に就いている労働者には、2年以内に特別教育を実施することになっているか。	□有・□無	□適・□否	

記入要領

- 「該当」及び「措置」の欄には「有・無」あるいは「適・否」のいずれかに「レ」を付すこと。
- 1(2)「点検事項」欄の下欄の括弧内に困難な場合を具体的に記入すること
- 1(2)下欄及び1(2)について、「備考」欄の講ずる措置は当てはまるものに「レ」を付すこと。また、その他の場合は括弧内に具体的に記入すること。

厚生労働省HP「足場からの墜落防止対策を強化します。～平成27年7月1日から施行～」にて足場の点検票がDLできますのでご利用ください。
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000081490.html>

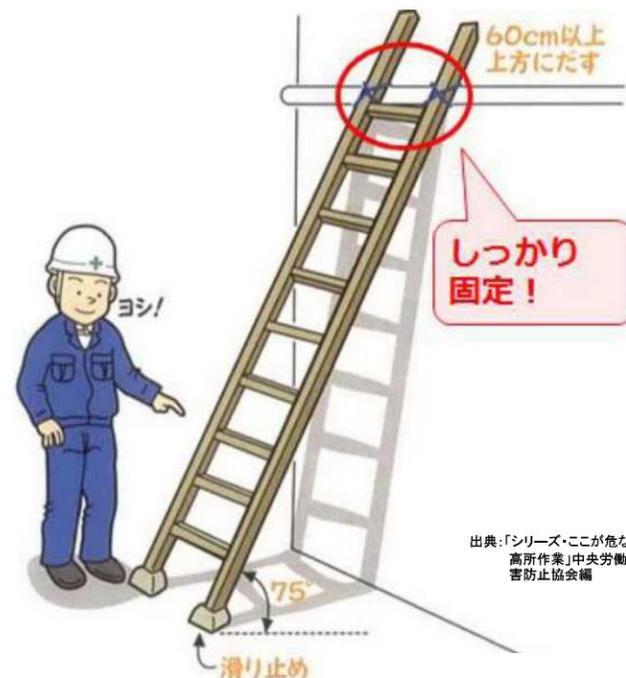
③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶はしごの安全な使用

雪下ろしにはしごを使うときは、以下のポイントをチェックして墜落を防止する。

- 使用前点検を行い、痛みや腐食等がないか確認
- はしごをかける際に邪魔な雪庇は地上から先に落としておく
- 上端を60 cm以上突き出す
- 立て掛け角度は75°程度
- 足元には滑り止めをつける
- 上部、下部の固定状況を確認
- 3点支持で昇降
- はしごのステップに乗ったままで作業はしない
- ヘルメットを着用

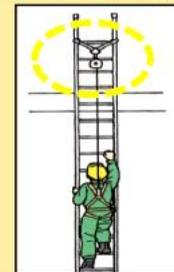


出典:「シリーズ」ここが危ない
高所作業」中央労働災
害防止協会編

こういった後付けの安全器具もあります

【はしご支持・手摺金具】 【はしご足元安定金具】

（安全ブロック
（ストラップ式の
墜落防止器具）



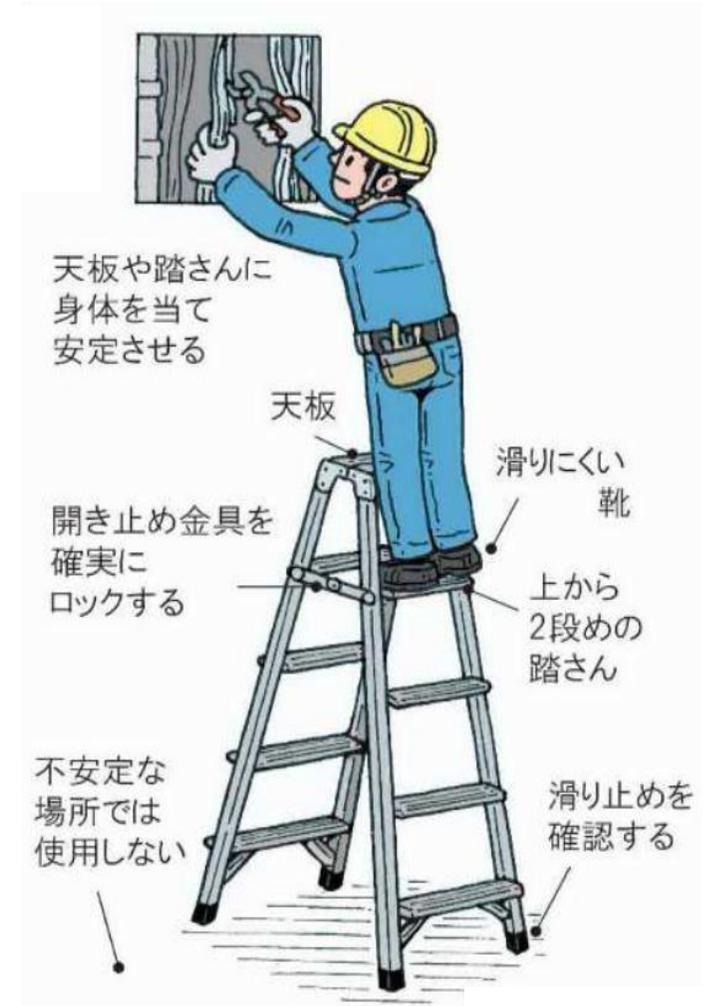
③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶脚立の安全な使用

雪下ろしに脚立を使うときは、以下のポイントをチェックして墜落を防止する。

- 使用前点検を行い、痛みや腐食等がないか確認
- 脚立の4足が確実に接地する、水平な床面で使用
- 天板上や天板を跨いでの作業は禁止
- 必ず開き止めを使用
- 上から2段目以下の踏み栈を使用し、天板や踏み栈に体を当てて安定させる
- 頭の真上で作業を行わない
- 荷物を手に持ったままでの昇降は控える
- ヘルメットを着用
- 高さが2 m以上になる際は墜落制止用器具を使用



③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶はしご脚立での作業時もヘルメット着用を

高さ1 m未満の場所からの墜落であっても、地面に頭部を打つと重篤な災害となる。

はしごや脚立を使用する際は、高さ1 m未満の場所での作業であっても、墜落時保護用のヘルメットを着用することが望ましい。

必ず保護帽を着用!



(着用時 5つのポイント)

- 1 「墜落時保護用」を使用すること
- 2 傾けずに被ること
- 3 あご紐をしっかりと、確実に締めること
- 4 破損したものは使わないこと
- 5 耐用年数を守ること

1 要チェック!
ヘルメット内側に貼られている「国家検定合格標章」等に用途が書かれています!

3 参考
あごヒモと耳ヒモの接続部分を留め具等で固定すると、墜落時の衝撃でヘルメットが着脱しにくくなります!

特に1と3を忘れずに!
(死亡災害時によく見られた、忘れやすいポイントです)

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶雪は上から下へ

雪下ろしは屋根の上から下へを基本とする。
スコップの代わりにスノーシューターなどを使用することにより、身体への負担を軽減することが可能。

▶雪はすべて下ろさない

屋根に10cm程度の雪を残すと、屋根材が露出しないので、屋根材で滑って転ぶ危険性が小さくなる。

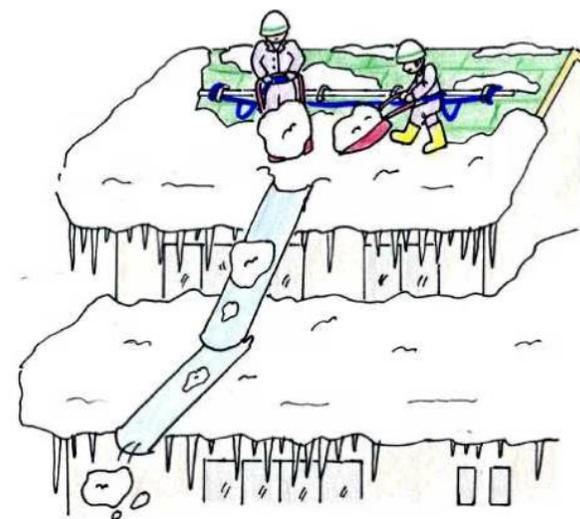
▶雪下ろしのときは周りに雪を残す

落下したところに積雪があることで、転落時の衝撃を軽減できることも。

雪下ろし後に建物周りの除雪を行う。

▶除雪道具や安全対策用具の手入れ、点検を行う

スコップやスノーダンプなどの除雪道具には、雪が付きにくくなるスプレー等を使用する。



スノーシューター

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

墜落・転落災害防止の方法

▶ 単独作業は行わない

万が一災害が発生してしまった際にすぐに救助ができるよう、必ず複数名の共同作業で行う。また、携帯電話を携帯しておくこと。

▶ 複数作業では上下作業は避ける

雪の塊や軒先の氷柱が落下し、人体に落下すると重大な災害となる。

作業箇所の直下は立ち入り禁止とし、カラーコーン等により分かりやすく周知する。

複数名で雪下ろしを行う際は、上下作業にならないように各員を配置し、声を掛け合いながら作業する。

(参考)雪の重さについて:

雪は、1㎡あたり1cmの嵩で積もった場合、2～3kgの重さになります。例えば、50坪(約160㎡)の総二階建の住宅の屋根に1mの雪が積もった場合、その重量は16～24トンにもなります。

▶ 明り取り窓の踏み抜きに注意

雪下ろし作業中、明り取り用の窓を踏み抜いて墜落し、死亡するケース有。

⇒事前に建物の形状を確認して明り取り窓がないか確認し、窓付近は立入禁止とする。

やむを得ず窓付近に立ち入る場合は、窓に歩み板を設けるなどの措置を講じる

③ 冬季労働災害防止対策について【墜落・転落】

飛騨地域の取組事例

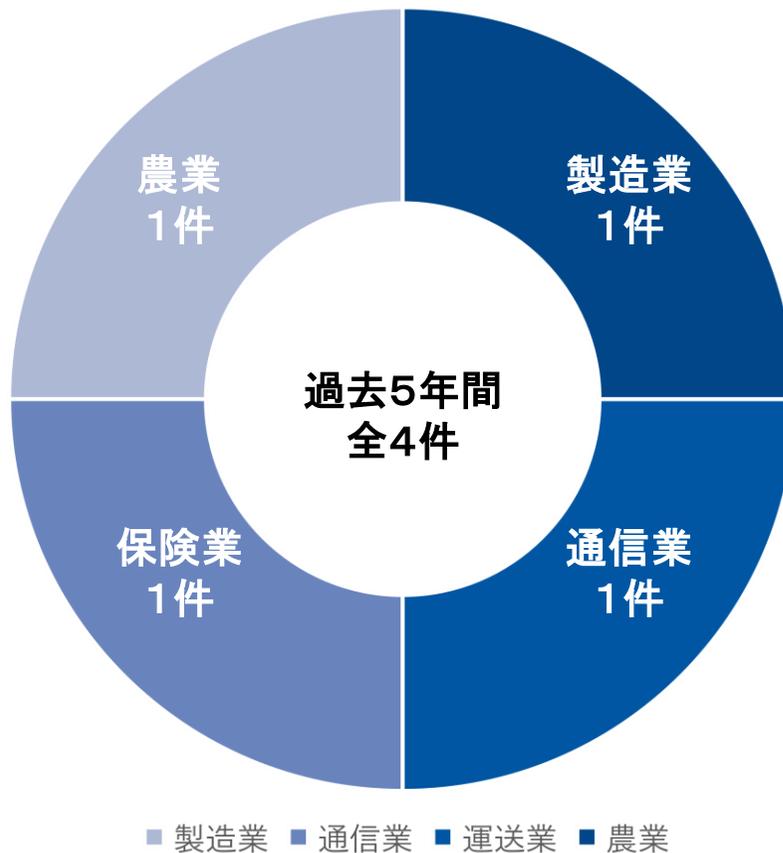
<p>事業場名 (所在地)</p>	<p>飛騨銘水株式会社 (岐阜県高山市丹生川町白井270)</p>	<p>業種</p>	<p>製造・販売業</p>
<p>取組内容 など</p>	<p>○雪下ろし、除雪、高所作業に特化した安全作業手順書を策定している</p> <div data-bbox="1230 519 1866 1215" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;"><u>安全作業手順書</u></p> <p style="text-align: center;">【雪下ろし・除雪・高所作業等における安全作業手順】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 雪下ろし・除雪・高所作業等は危険を伴う作業の為、必ず2名以上の体制行う事。 2. 雪下ろし作業での高所への登り降りの際、地面が凍結している危険性もあり安定性の高い脚立等を使用し、移動はしごの使用は原則禁止とする。 3. 高所への登り降りの脚立使用の際は、必ず1名が下で支え固定する事。 4. 高所への登り降りの際は必ず、ヘルメット・滑り止め軍手等の保護具の着用 5. 脚立での登り降りの際は片手にスコップ等を持たず、必ず両手を使用。 6. 万一の事を考え、地面を除雪した後高所での雪下ろしは禁止とする。 7. 雪下ろし・除雪・高所作業等を行う際は、必ず管理責任者に作業内容・作業人員・作業時間等を報告し許可を取り作業を開始する事。 <p style="text-align: center;">上記の手順に基づいた作業を順守・徹底し安全な作業に取り組む事</p> </div>		

③交通事故

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

交通事故労働災害発生状況

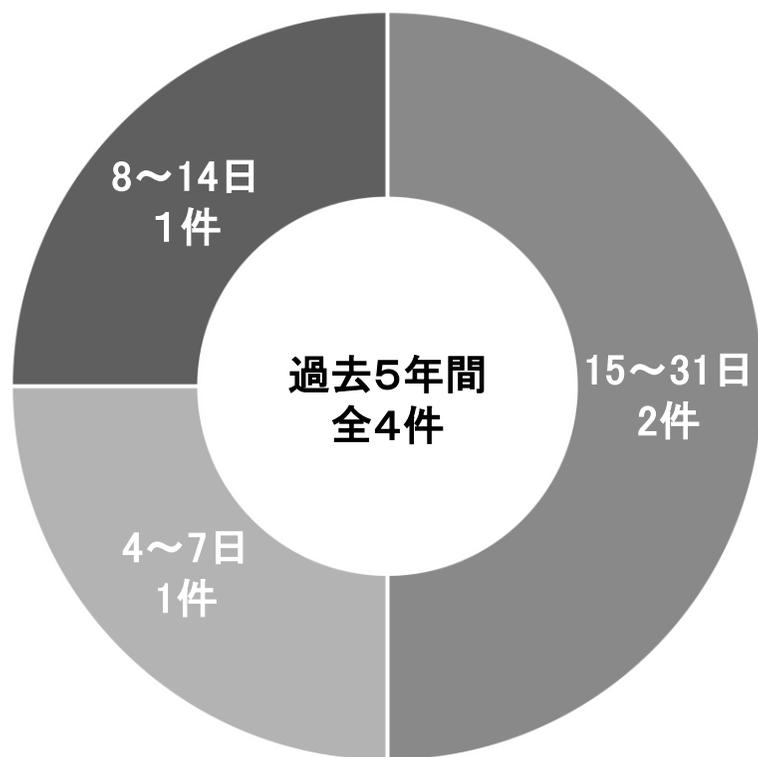
冬季交通事故災害 業種別



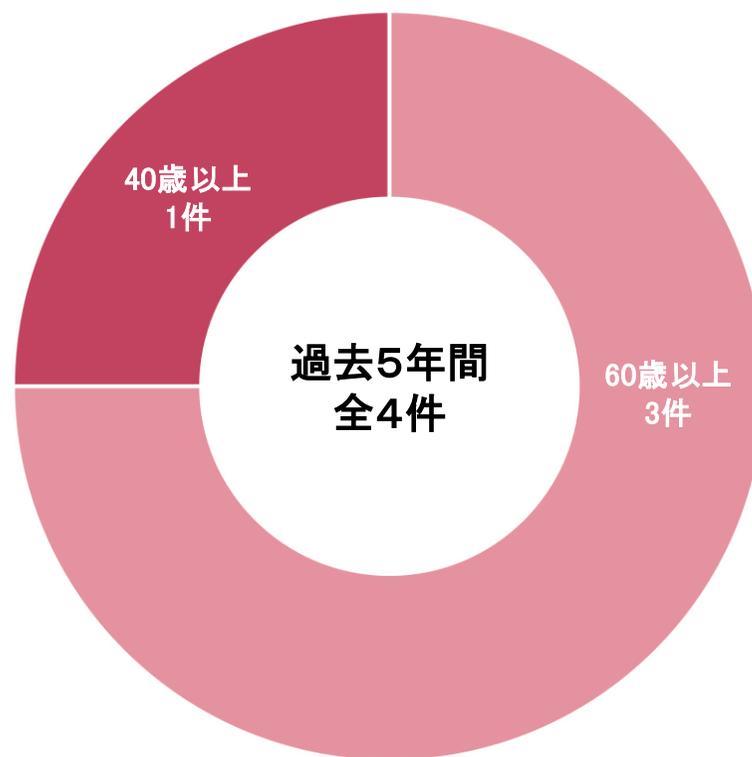
③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

交通事故発生状況

冬季交通事故災害 休業期間別



冬季交通事故災害 年代別



③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

過去5年間に発生した冬季交通事故 休業4日以上全4件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
1	自動車運送業	1月	自動車を運転中、右折するところ、右折できず直進し建物に衝突した。	6日	60代	胸部圧迫
2	通信業	2月	自動二輪車で集配作業を行っていた際、塊となっていた路面の雪に当たってバランスを崩し、自動二輪車の下敷きになった。	14日	60代	足首靭帯損傷
3	農業	3月	道路を横断していたところ、道路を走行していたトラクターに激突され、トラクターの下敷きになった。	30日	80代	顔面打撲
4	製造業	1月	自動車を運転中、対向車がセンターラインをはみ出して自車に激突し、さらに後続車が後ろから衝突した。	20日	40代	右股関節脱臼

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故発生状況

どのような交通事故が多い？

凍結路面で**スリップ**

👉 トンネル出入口でスリップ

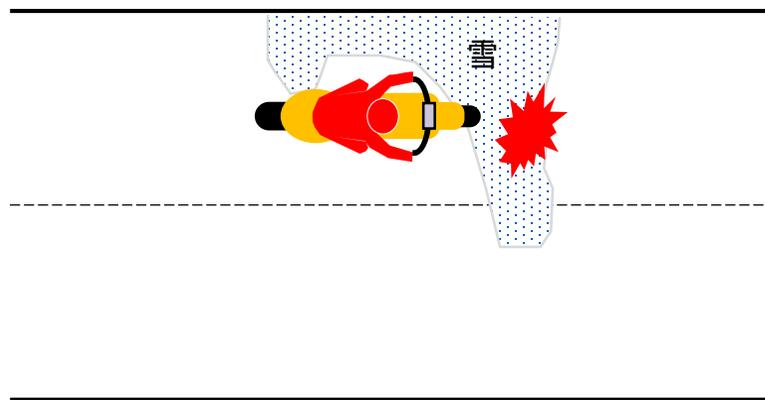
👉 凍結した轍に衝突

視界不良で事故

👉 車体の雪下ろしを怠った

👉 吹雪に遭遇した

災害事例	自動二輪車で移動中に雪の塊に当たり転倒	
災害発生状況	自動二輪車を運転して下りの直線道路を移動中、吹雪で視界が悪く時速30km未満で走行していたところ、路面の雪が轍となって凍結し塊となっており、その雪の塊に当たりバランスを崩して転倒し、右足が自動二輪車の下敷きとなった。	
傷病部位	右足首	
傷病名	靭帯損傷	
休業見込期間	14日	



③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止のチェックポイント

☑まずはチェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	1	冬用タイヤを着用し、タイヤ摩耗の有無の点検、交換を適切に行いましょう
<input type="checkbox"/>	2	過去の災害事例を参考とした「交通安全情報マップ」を作成し、事故多発区域を周知していますか？
<input type="checkbox"/>	3	運転前に交通状況を手入れし、余裕をもって早めに出発していますか？
<input type="checkbox"/>	4	法定速度を遵守したうえ、路面状況等に合わせた速度で運転していますか？
<input type="checkbox"/>	5	急ブレーキ・急アクセル・急発信・急加速は禁止していますか？
<input type="checkbox"/>	6	早めにライトを点灯し、通常時より長めに車間距離を確保していますか？
<input type="checkbox"/>	7	降雪・積雪により視野が狭くなることを前提とした危険予知を行いましょう
<input type="checkbox"/>	8	吹雪等に遭遇した際は、ハザードランプを点滅し安全な場所へ退避していますか？

⇒ ☑が付かなかった部分は、今日から積極的な取り組みをお願いします

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶スタッドレスタイヤの注意事項

雪道走行に必須といえるスタッドレスタイヤ

使用上の注意事項を確認せずに使用すると、重大な交通事故を引き起こす可能性も。

- ・スタッドレスタイヤを過信しない
スタッドレスタイヤ（雪路用タイヤ）を装着しても、乾燥路面と比べると非常にスリップしやすいことを十分認識した運転を。
- ・チェーン着用が必須な道路も
右の標識によってタイヤチェーンを着けていない車の通行が禁止されている道路では、タイヤチェーンを装着して通行する。
- ・全車輪に装着
スタッドレスタイヤは、全車輪に装着することが基本となっている。
駆動輪のみに装着した場合は、車両の挙動が安定しないなど、十分な滑り止め効果が得られない。



③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶タイヤの摩耗を点検

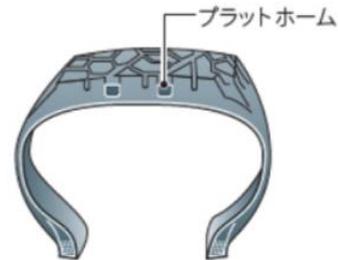
スタッドレスタイヤ使用限界は、溝の深さが新品時の50%までとされている。

スタッドレスタイヤには摩耗状態がひと目で分かるように目印（プラットフォーム）が設けられている。

日常点検でプラットフォームを確認し、摩耗しているタイヤはすぐに交換する。

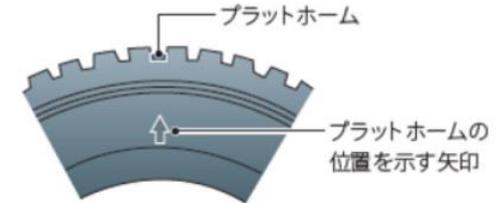
●プラットフォームとは

日本国内における道路交通法施行細則等によって定められた冬用タイヤとしての使用限度の目安となる新品時の溝深さから50%の位置にあるゴムの盛り上がりを設置した部分をいいます。



●プラットフォームの位置

プラットフォームの位置を示す↑がタイヤの両側面にそれぞれ周上4ヶ所以上に表示されています。



残り溝深さが「プラットフォーム」に達している状態。冬用タイヤとして使用できません。

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶ 常備品の確認

吹雪による立往生といった非常事態に備え、車の常備品を確認しておく。

↓ 常備品の例

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> タイヤチェーン | <input type="checkbox"/> ブースターケーブル、ジャンプスターター |
| <input type="checkbox"/> ジャッキ | <input type="checkbox"/> 防寒具（毛布、使い捨てカイロ等） |
| <input type="checkbox"/> 手袋 | <input type="checkbox"/> 発煙筒 |
| <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> 水と非常食 |
| <input type="checkbox"/> 除雪用ブラシ&スクレーパー | <input type="checkbox"/> 非常用トイレ |
| <input type="checkbox"/> スコップ | <input type="checkbox"/> 牽引用ロープ |
| <input type="checkbox"/> 古毛布・古新聞・砂 | <input type="checkbox"/> 解氷剤 |
| <input type="checkbox"/> 輪留め | |
- etc

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

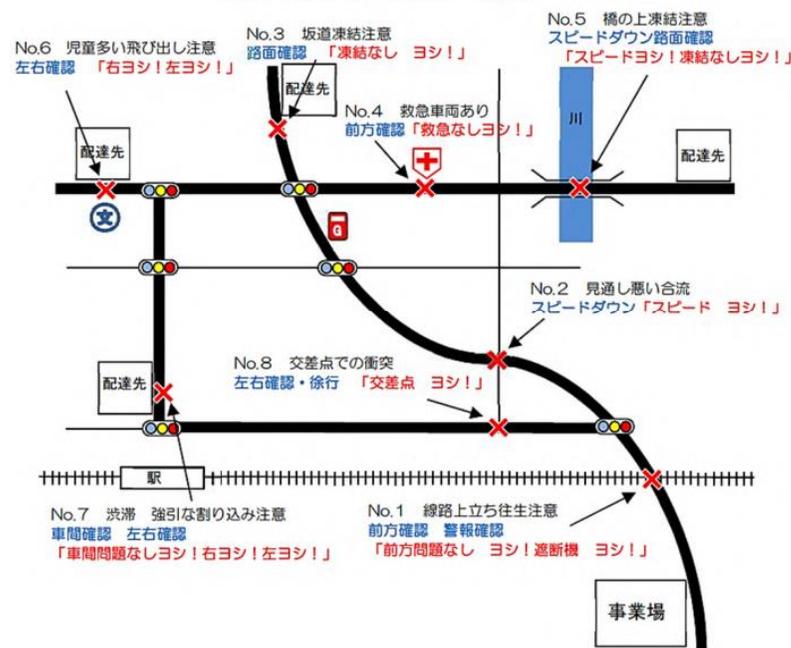
▶交通安全マップの作成

配送や送迎業務など、定まった経路を走行する場合に特に効果的である。

事前に「ヒヤリ」の集計や過去の災害事例から走行経路上における危険箇所を洗い出し、マップを作成する。

マップを労働者に周知し、労働者はマップを参考に「かもしれない運転」を心がける。

交通ヒヤリマップ（例）



③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶出発する前に

あらかじめ交通事情を確認し、渋滞や通行止めなど正確な情報を入手する。

早めの出発を心がけてゆとりある走行を。
冬季はこまめに燃料を補充しておく。

▶車体の雪降ろしは念入りに

屋根上の雪を残したまま発車すると、ブレーキ時にフロントガラスやリアウインドウに滑り落ちて自分の視界を塞いでしまうおそれがある。

走行中に車体から飛んだ雪が後続車の視界を遮り、雪の塊に乗り上げたりして事故を誘発する可能性も。

ウインカー、ヘッドライト、テールライトの除雪を怠ると他のドライバーに合図ができず、思わぬ事故につながる。



③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶長めの車間距離を確保

車が停止する距離は、積雪路面では、乾燥した舗装道路に比べて2～3倍となる。

運転中の車間距離は、普段より長めにとることが大切。

▶合図は早めに

進路変更や方向転換の合図は、普段出しているタイミングよりも早めに行って、周囲の車や人に自分の意思を確認してもらえるようにする。

▶「急発進・急加速」「急ハンドル」「急ブレーキ」は厳禁

「ブラックアイスバーン」に注意！

発進はやんわり、ゆっくりと。

カーブは、手前で十分速度を落として進行し、カーブを抜けてから徐々に加速する。

ブレーキはタイヤをロックしないように、ポンピングブレーキを使用して徐々に減速する。

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶特にスリップしやすい場所

- ・ トンネルの出入口付近

トンネル内は積雪がないためスピードを出してしまいがちだが、出入口近は日陰となり凍結していることが多い。

また、急に明るいところに出た時の眩しさで路面状況の確認も難しく危険である。

- ・ 橋

吹きさらしのため凍結しやすい。

- ・ 交差点

多くの車が行き交うことで路面が磨かれ滑りやすくなっている。

- ・ 急カーブ

予め速度を落としエンジnbrakeの使用を心がける。

- ・ 坂道

雪道の坂道でのすれ違い時は、一度止まったら再発進の難しい登りが優先となる。

下りは低めのギアでエンジnbrakeを使用してゆっくり走行する。

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

冬季交通事故防止の方法

▶ 駐車時の注意点

雪の壁にバックで突っ込んで駐車すると、マフラーが雪で詰まり一酸化炭素中毒の原因となることがある。

▶ 吹雪に遭遇したら

まずはハザードランプやヘッドライトをつけて周囲に車の存在を知らせながら減速する。

後方の安全が確認できたら、車を道路の端に寄せて吹雪や大雪が落ち着くのを待つ。

身動きが取れなくなったときは、直ちに道路緊急ダイヤル（#9910）などに連絡し、救援を要請する。

避難できる場所が確実に確認できる時以外は車を離れない。吹雪の中で自分の位置を見失い、遭難するおそれがある。

原則エンジンを切り、いつでも脱出できるよう、風下側のドアが開くかどうか定期的に確認しながら救援を待つ。

防寒のためエンジンをかける場合、マフラーが雪に埋まらないように、必ずマフラー付近を除雪する。



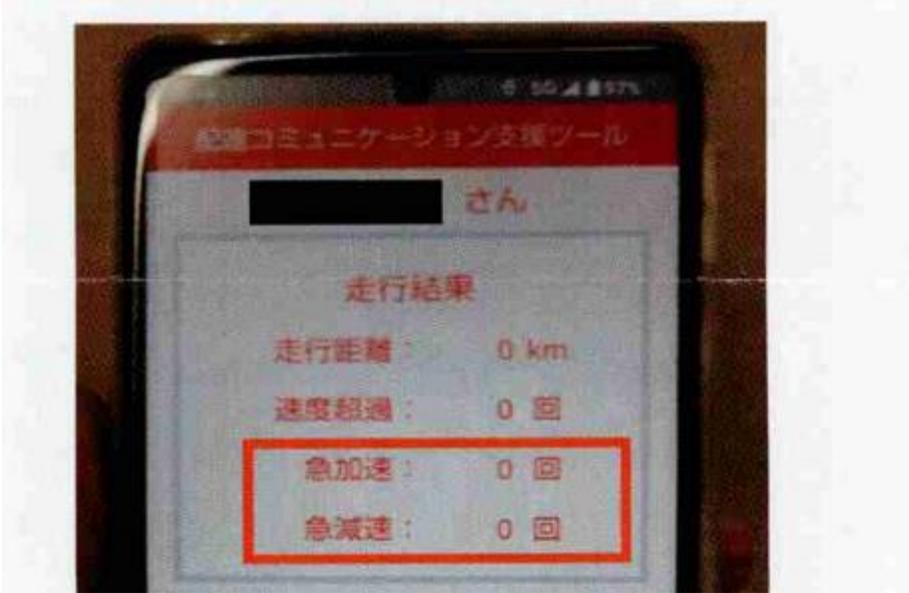
③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

飛騨地域の取組事例

事業場名 (所在地)	日本郵便(株)萩原郵便局 (岐阜県下呂市萩原町1296-8)	業種	郵便局
取組内容 など	<p>○冬季安全対策 バイクによる配達のため、スタッドレスタイヤの履き替え、チェーンの装着を行っている。</p> <div data-bbox="486 701 1715 1172"><p>【スタッドレスタイヤ】</p><p>【チェーン装着時】</p></div>		

③ 冬季労働災害防止対策について【交通事故】

飛騨地域の取組事例

事業場名 (所在地)	日本郵便(株)萩原郵便局 (岐阜県下呂市萩原町1296-8)	業種	郵便局
取組内容 など	<p>○<u>アプリによる急加速・急減速の管理</u> スマートフォンを配達員に携行させ、JP独自のアプリにより「急加速」「急減速」の回数を把握し、交通事故防止に向けた指導に活用している。</p> 		

③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

④重機災害

③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

冬季重機災害発生状況

どのような重機災害が多い？

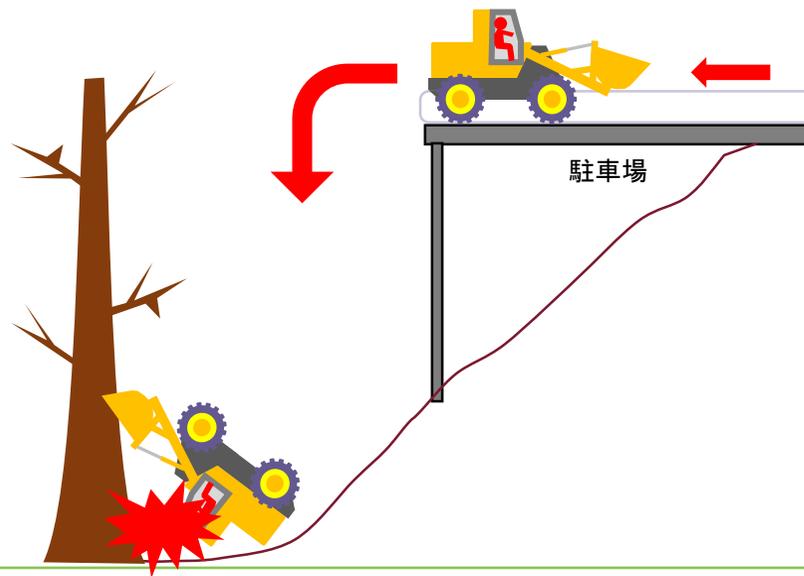
路肩から**墜落・転落**

- ☞ 積雪で路肩の位置が分からず墜落
- ☞ 路面凍結でスリップ

作業者との**接触**

- ☞ 通行人に気付かず後退し接触
- ☞ 通行人が立入禁止に気付かず接近

災害事例	トラクターショベルで除雪作業中に開口部から墜落	
災害発生状況		
<p>トラクターショベルを運転して駐車場の除雪作業中、運転操作を誤り、駐車場の柵が開放された部分からトラクターショベルごと10m下の谷底へ墜落し、屈曲した車体屋根部と座席とにはさまれた。災害発生時には、誘導者が配置されておらず、墜落防止措置となる柵が開放された状態となっていた。</p>		
傷病部位	胸部	
傷病名	外傷性血気胸	
休業見込期間	死亡	



③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

冬季重機災害防止のチェックポイント

☑まずはチェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	1	作業前に機械に付着した雪や氷塊を除去し、ワイパーやウインドーガラスの熱線等の性能を確認していますか？
<input type="checkbox"/>	2	周囲の人との接触防止のため、危険箇所を標示して人の立入を禁止していますか？
<input type="checkbox"/>	3	路肩を走行する際は、ポール等により路肩位置を表示し、誘導者を配置していますか？
<input type="checkbox"/>	4	誘導者その他作業員は蛍光ベストやヘッドライト等を着用していますか？
<input type="checkbox"/>	5	識別しやすい合図方法を事前に決定し、重機の作業範囲外で誘導していますか？
<input type="checkbox"/>	6	山中での作業時は、過去の雪崩発生状況を確認し、作業中止基準や緊急避難場所を定めていますか？

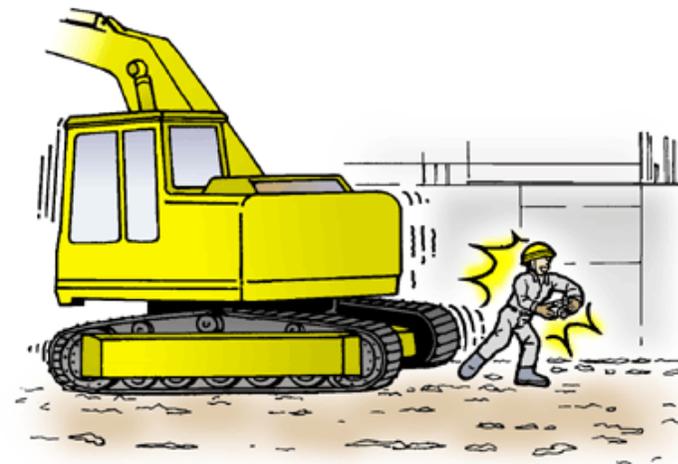
⇒ ☑が付かなかった部分は、今日から積極的な取り組みをお願いします

③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

冬季重機災害防止の方法

▶作業員との接触防止

- ・立入禁止措置
重機と作業員が接触するおそれのある箇所は、カラーコーンの設置等により立入禁止措置をとる。
立入禁止とすることが困難な場合は、必ず誘導員を配置する。
- ・視認性の高い装備
降雪により視界が悪い場合は、運転席から見やすいように蛍光ベストや誘導棒を装備する。
- ・合図の設定
分かりやすい合図を定め運転者と誘導者が共有しておく。
合図は重機の作業範囲外から行う。
- ・安全装置を備えた重機の採用
接近感知センサー、警報装置を備えた重機を使用する。



③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

冬季重機災害防止の方法

▶路肩からの墜落防止

・路肩の表示

路肩にポール・旗を設置し、路肩の位置を明示する。ポール・旗は積雪で埋まらないように保護しておく。

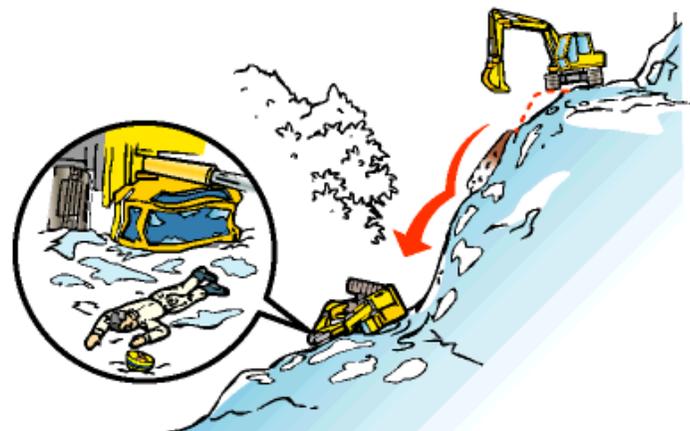
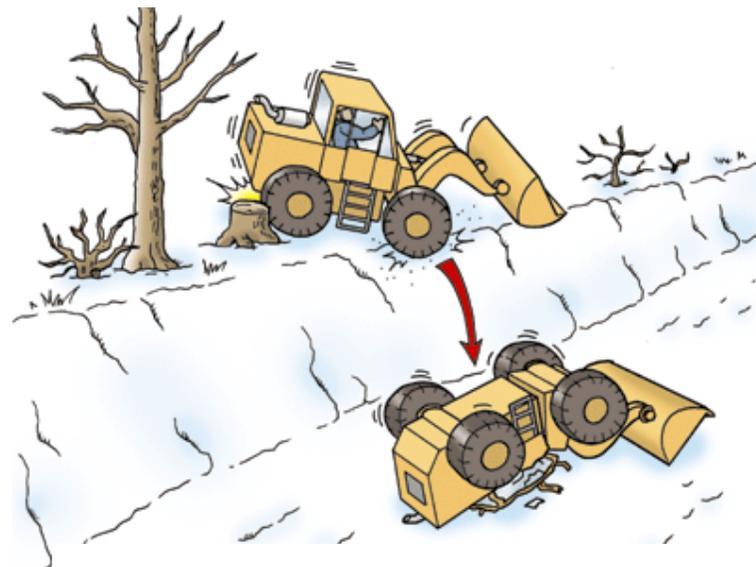
落下・警告等の安全標識を設置し運転者に墜落の危険を知らせる。

・制限速度の設定

墜落危険箇所では制限速度を設定する。運転者は特に前方を注意し、速度を緩め、障害物等を十分確認しながら走行する。

・シートベルトの着用

万が一墜落・転落してしまった際に身体が車外に投げ出されないように、シートベルトを装着して運転席のドアを閉めておく。



③ 冬季労働災害防止対策について【重機災害】

冬季重機災害防止の方法

▶重機で除雪する際の資格

除雪で使用されるトラクター・ショベル（四輪駆動）は、車両系建設機械（整地・運搬・積み込み用及び掘削用）に該当し、運転には資格が必要である。

機体重量が3トン以上であれば技能講習を修了している者が、機体重量が3トン未満であれば特別教育を修了した者も作業に就くことが可能である。

▶重機をトラックに積載する際の注意事項

道板を使用して重機をトラックに積載する際には、必ず道板をトラックの荷台に固定する。積載中に滑って転倒しないようにキャタピラや道板から十分に雪を取り除く。

▶重機運転時の服装

防寒着等のポケットや袖を締めないで運転をすると、操作レバーに引っ掛かり予想外の動きをして災害につながることも。

▶重機から降りる際

重機からはゆっくり降りる。

キャタピラに足をつけた際に、キャタピラに付着した雪で滑って落ちることも。

雪の上に飛び降りると、雪の下に物が隠れていると着地時に足を怪我するおそれがある。

⑤ 一酸化炭素中毒

③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

一酸化炭素中毒とは

▶ 過去の災害事例

(1) 被災者は、早朝までの勤務を終え事業場の駐車場に止めた車へ移動したが、除雪作業が追い付かず、雪で駐車場や車が覆われていたため、エンジンをかけ暖を取りながら車内で待機していた。その後、管理者が被災者を発見・通報し、駆けつけた救急隊により、死亡が確認された。車のマフラーが雪に埋もれていたため、排気ガスがエアコンの吸気口から車内に入ったと推定される。なお、運転席と助手席の窓は約3分の1開いていた。

(2) 洗浄室において、宴会会場で使用した食器類を食器洗浄機等のガス機器で洗浄していた際、換気設備を稼働させていなかったため、室内の酸素濃度が低下しガスの不完全燃焼が起きた。洗浄室内で作業をしていた労働者7名が体調不良を訴え、病院を受診したところ、一酸化炭素中毒と診断された。

③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

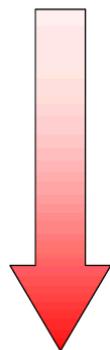
一酸化炭素中毒とは

▶ 一酸化炭素中毒とは？

通常、炭素を含む物質が燃焼すると二酸化炭素が発生するが、換気が不十分等の理由で酸素が不足した状態で不完全燃焼を起こすと一酸化炭素が発生する。

一酸化炭素は無色、無味、無臭、空気とほぼ同じ比重（空気を1としたとき0.967）で、かつ強い毒性を有する。

一酸化炭素を吸入すると血液の酸素運搬能力が下がり、軽度では頭痛・吐き気・めまいを引き起こす。対応が遅れると、四肢の自由が利かなくなることもあり、死亡災害や重大な脳機能障害が残る災害に発展することもある。



危険

CO濃度	吸入時間と中毒症状
0.02% (200ppm)	2～3時間で前頭部に軽度の頭痛
0.04% (400ppm)	1～2時間で前頭痛・吐き気、 2.5～3.5時間で後頭痛
0.08% (800ppm)	45分間で頭痛・めまい・吐き気・けいれん、 2時間で失神
0.16% (1600ppm)	20分間で頭痛・めまい・吐き気、 2時間で死亡
0.32% (3200ppm)	5～10分間で頭痛・めまい、 30分間で死亡
0.64% (6400ppm)	1～2分間で頭痛・めまい、 15～30分間で死亡
1.28% (12800ppm)	1～3分間で死亡

※通常的环境は10ppm以下とされる

※0.04%は、標準的な浴室（5立方メートル）に、2Lのペットボトル1本分程度

③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

冬季一酸化炭素中毒発生状況

どのような状況での一酸化炭素中毒が多い？

工事現場で

- ☞ 換気せず発電機を使用
- ☞ 練炭を使用してコンクリ養生

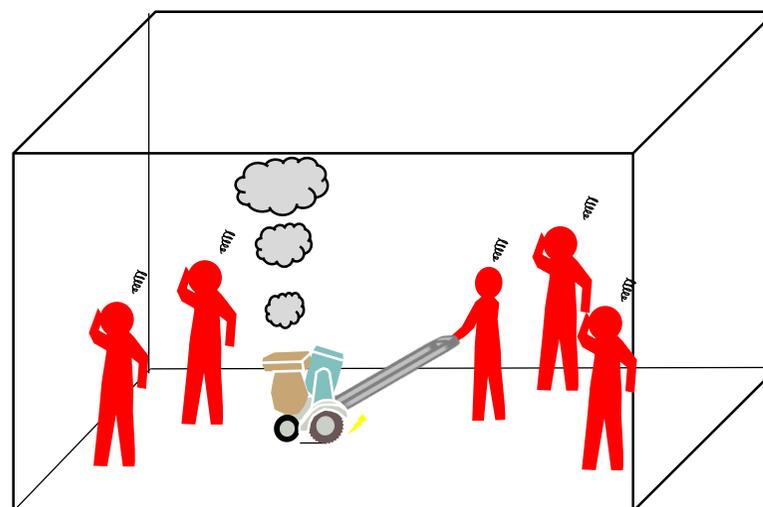
事務所で

- ☞ 暖房中換気ホースが雪で埋まる

厨房で

- ☞ 排気口が詰まったままガス調理

災害事例	エンジン式コンクリートカッターで一酸化炭素中毒	
災害発生状況	店舗改修工事中、自動車用ガソリンを燃料とするエンジン式コンクリートカッターを使用し、コンクリート土間の切断工事を行っていたところ、ポータブルファンを稼働させていたものの換気が不十分であり、建屋内にいた作業員5名が眩暈や気分の悪さを訴えた。	
傷病部位		
傷病名	一酸化炭素中毒	
休業見込期間	2日	



③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

冬季一酸化炭素中毒防止のチェックポイント

☑まずはチェックしてみましょう！

<input type="checkbox"/>	1	一酸化炭素中毒の危険性・呼吸用保護具の使用方法・換気方法・緊急時の対応等について、関係労働者へ教育を行っていますか？
<input type="checkbox"/>	2	作業前に一酸化炭素中毒の危険がある箇所を特定し、立入禁止としていますか？
<input type="checkbox"/>	3	自然換気の悪い場所ではエンジンや練炭等は原則使用禁止とし、やむを得ず使用する場合は換気装置等を設置し確実に稼働させていますか？
<input type="checkbox"/>	4	十分な換気ができない箇所へ立ち入る場合は、適切な呼吸用保護具(送気マスクエアライン式呼吸用保護具等)を使用していますか？
<input type="checkbox"/>	5	燃焼式の暖房器具を使用する際は、定期的に換気し屋外の排煙設備を点検していますか？

⇒ ☑が付かなかった部分は、今日から積極的な取り組みをお願いします

③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

冬季一酸化炭素中毒防止の方法

▶一酸化炭素発生源を把握

内燃機関（ガソリンエンジン等）を動力源とする機械、練炭コンロ、厨房のガス器具、暖房器具といったCO発生機材の有無を確認する。

▶発生源の排除

CO発生源となる機材を、COを発生させない機材に代替できないかをまず検討する。

▶安全衛生教育の実施

一酸化炭素は無色無臭のため感覚的に危険を察知することが困難。

一酸化炭素中毒についての知識がない労働者は、知らずのうちに被災するおそれがある。

安全衛生教育を行ってその危険性を十分に認識させることが重要である。



③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

冬季一酸化炭素中毒防止の方法

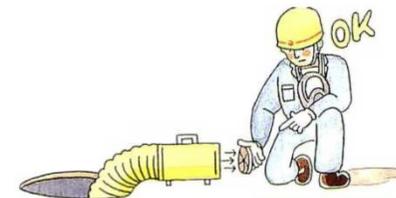
▶十分に自然換気させる

空気の入出口ができるだけ対角線となるよう2か所以上の窓を開けて、十分に自然換気できる状況をつくる。

部屋の大きさにもよるが、暖房を使うときは30分に1回程度の換気が目安となる。

▶換気設備を忘れずに

自然換気の不十分な場所でCO発生機材を使用する場合は、必ず換気設備を稼働させる。設置された換気設備が適切に稼働し、必要な換気量を満たす性能を有しているか事前に確認する。



▶換気設備や給排気口のコマめな点検

給排気管に破損はないか、給排気口が物で塞がっていないかなどを確認する。降雪時には、給気口が積雪で埋まらないように屋根をつけたり雪かきを行う必要がある。

厨房など油や粉を多く使用する場所では、短期間で給排気口やダクトが閉塞するおそれがある。通常では青い炎が赤くなっているときは換気が不十分であるサイン。

③ 冬季労働災害防止対策について【一酸化炭素中毒】

冬季一酸化炭素中毒防止の方法

▶呼吸用保護具の使用

工事現場などにおいて、やむを得ず十分な換気ができない場所に立ち入る必要がある場合は、防毒マスクや送気マスクを使用する。

▶警報装置の使用

一酸化炭素は無色・無臭でばく露されても気が付きにくいいため、警報装置を使用する。

使用前の作動確認を忘れずに。

▶緊急時対応について

緊急時の避難方法や連絡体制について明確にしておき、避難訓練を実施する。



⑥ その他

③ 冬季労働災害防止対策について【その他】

過去5年間に発生した冬季労働災害（その他） 休業4日以上全7件

番号	業種	発生月	災害の概要	休業期間	年齢	傷病
1	建設業	12月	凍結した鉄製の外階段で作業中、足を滑らせた。手すりを掴んだところで体勢を崩し、右肩をねじった。	1か月	40代	右肩断裂
2	建設業	1月	燃料タンクからポリタンクに灯油を移し替えるために、ホースを口で吸ったところ、勢いよく灯油が上がってきたため誤飲した。	7日	20代	化学性肺炎
3	観光業	1月	スキー場のリフト乗場にて、リフトの座席を折りたたむ作業をしていたところ、座席が強風を受け大きく揺れ、右肩に激突した。	4ヶ月	70代	右肩腱板断裂
4	旅館業	1月	スキー場のパトロール業務のため、急斜面をスキーで滑走中に、雪の塊に激突した。	5ヶ月	60代	左アキレス腱断裂
5	その他のサービス業	12月	トラックを上りの坂道に停め、タイヤにチェーンを装着していたところ、輪留めがしっかりできていなかったため、トラックが後退し出し足を轢かれた。	6か月	60代	大腿骨骨折
6	林業	2月	チェーンソーで木の玉切りを行っていたところ、雪で足が滑りチェーンソーが足に接触した	1か月	50代	足骨折 腱損傷
7	酪農業	12月	雪下ろしで腰を痛め、その後トラックとローダーの運転を繰り返したことで更に悪化した。	12日	20代	腰痛

③ 冬季労働災害防止対策について【その他】

冬季労働災害防止に向けた共通の取り組み

▶ 共通事項

- 経営トップは労働災害防止に向けた各種対策に積極的に取り組むこと。
- 冬季特有の要因を踏まえたリスクの見積りを行い、ハザードマップ等を作成するとともに、リスク低減措置を講じること（リスクアセスメント）。
また、作業開始前のKY（危険予知）活動、災害事例を取り入れた安全衛生教育を実施すること。
- 安全衛生管理体制を整備し、安全担当責任者自ら具体的な災害防止活動の管理を行うこと。
- 気象情報を事前に把握し、これに応じた作業スケジュールを計画すること。
また、大雪、低温等の警報・注意報発令時の関係者への周知徹底及び落雪のおそれがある場合や悪天候時の作業中止基準を策定すること。
- 寒冷な作業環境下での長時間労働は避けるほか、屋外作業においては、日照時間が短いことを考慮した作業スケジュールを設定すること。
- 特に初めて飛騨地域の冬を経験する者に対して、冬季用の靴の使用や雪道の歩き方、自動車の冬道運転等の安全教育を行うこと。

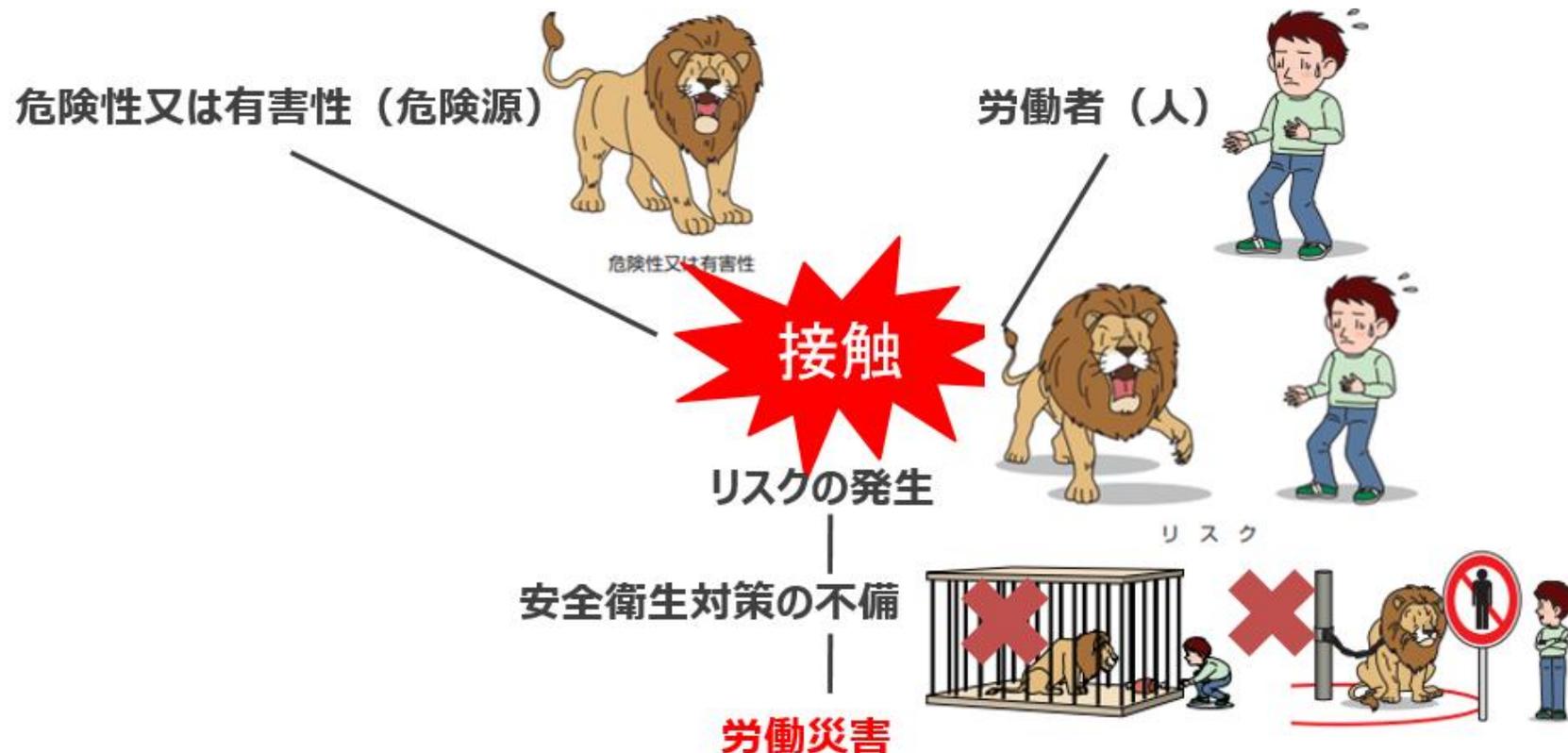
本日の内容

- ① STOP! 冬季労働災害プロジェクトとは
- ② 労働災害防止対策の必要性について
- ③ 冬季労働災害防止対策について
(転倒、転落・墜落、交通事故、その他)
- ④ リスクアセスメントについて

④ リスクアセスメントについて

労働災害が起こるポイント

労働災害は「危険性又は有害性」と「人」が接触したとき、発生する。



④ リスクアセスメントについて

労働災害が起こるポイント

再発防止対策（リスク低減措置）は次の順序で考えます

①危険作業の廃止・変更（本質安全化）

危険性や有害性の低い材料への代替、より安全な施工方法への変更 など

②工学的対策

ガード、インターロック、局所排気装置の設置 など

③管理的対策

マニュアル整備、教育訓練、立ち入り禁止措置、ばく露管理 など

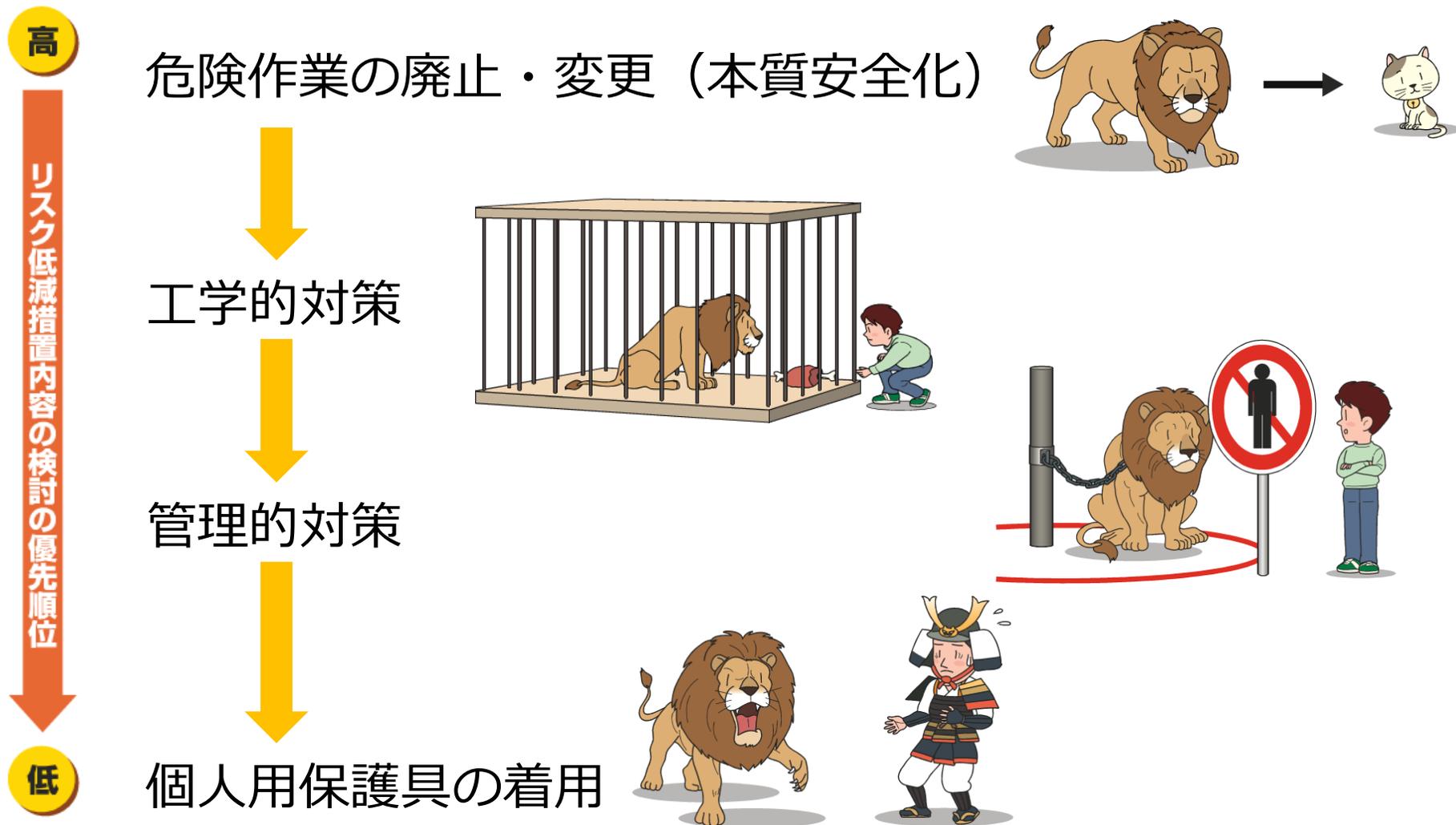
④個人用保護具の着用

上記①～③の措置を十分に講じることができず、

除去・低減しきれなかったリスクに対して実施するものに限る

④ リスクアセスメントについて

労働災害が起こるポイント



④ リスクアセスメントについて

労働災害が起こるポイント

リスクアセスメントとは

事業者自らが

- ①作業現場にある危険性又は有害性を特定し、
- ②労働災害（健康障害を含む）の重篤度（災害の程度）とその災害が発生する可能性を組み合わせるリスクを見積り、
- ③そのリスクの大きさに基づいて対策の優先度を決めた上で、
- ④リスクの除去、低減措置を検討し、その結果を記録する

一連の安全衛生管理手法です。

④ リスクアセスメントについて

労働災害が起こるポイント

リスクアセスメントは、潜在的な危険性又は有害性を未然に除去・低減させるためのものです（先取り型）。

※自社や他社等で過去に発生した災害からもリスクアセスメントを行うこと（後追い型）は可能。

後追い型

自社・同業他社等で過去に起きた
災害から学ぶ安全衛生管理



先取り型

潜在的な危険性又は有害性を未然
に除去・低減させる

高山労働基準監督署からのお知らせ

「職場のあんぜんサイト」について

- 事業場の安全衛生管理に「職場のあんぜんサイト」をご活用ください。
- 「職場のあんぜんサイト」では死亡災害事例の検索等を行うことができます。
- リスクアセスメントの支援ツールや各種教材も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

職場のあんぜんサイト
の二次元コード



高山労働基準監督署からのお知らせ

「労働安全衛生法関係の届出・申請等帳票印刷に係る入力支援サービス」について

- 「労働安全衛生法関係の届出・申請等帳票印刷に係る入力支援サービス」では労働安全衛生法に基づく一部の届出について、帳票作成や印刷をすることが可能です。
- 令和7年1月1日から電子申請が義務化される7種類の届出（※）については、入力支援サービスから直接、電子申請をすることができますので、入力支援サービスをぜひご活用ください。

（※）労働者死傷病報告、総括安全衛生管理者/安全管理者/衛生管理者/産業医の選任報告、定期健康診断結果報告、心理的な負担の程度を把握するための検査結果等報告、有害な業務に係る歯科健診診断結果報告、有機溶剤等健康診断結果報告、じん肺健康管理実施状況報告

入力支援サービス
ホームページの二次元コード



高山労働基準監督署からのお知らせ

令和6年度 STOP!冬季労働災害プロジェクト 取り組み事例報告

「令和6年度 STOP!冬季労働災害プロジェクト」の一環として、冬季特有の労働災害に対する取組事例を募集します。

また、好事例については、岐阜労働局のHPに載せるとともに翌年度のリーフレット等に活用させていただきます。

報告様式は岐阜労働局Webサイトからダウンロードできますので御参照下さい。
(検索ワード：高山労働基準監督署 最新情報)

報告はメール、FAX等で受け付けています。

- ・メール：takayama-annei@mhlw.go.jp
- ・FAX : 0577-32-1274

ご協力お願いいたします！

令和6年度 STOP!冬季労働災害プロジェクト 取組事例報告様式。

事業場名 工場名		所在地	
代表者職氏名			
業種		労働者数	
該当する対策の種類 ア 転倒 イ 墜落・転落 ウ 交通事故 エ 重機 オ 一酸化炭素中毒 カ その他			
取組内容 取組効果 など	タイトル(任意) _____		
※なるべく写真や絵などイメージできるものもあわせて記載してください。			
ご担当責任者 職氏名 連絡先			

※ 報告様式の枠の大きさは、必要に応じて拡大・縮小してください。



ご清聴ありがとうございました



安全第一

